本当に力がつく中国語の学び方

中央大学講師
永倉百合子

中国語の「特徴」と「文のしくみ」がわかる！

効果的で効率のよい「勉強法」がわかる！

興味深いコラムと異文化体験談！

GOKEN
語研

はじめに

「何か新しいことを始めてみようか」——だれでもこう思うときがあるでしょう。「新しいこと」——なんともワクワクする言葉です。それは私たちを日常生活から引っぱり出し，私たちに今までまったく知らなかった世界を見せてくれるかもしれません。そしてもう一度，学校にあがった一年生が第一歩を踏み出すときのあの気分を味わうことができるのです。

「新しく始めること」の選択肢の一つとして外国語があります。外国語の勉強はいつでも，どこででも，だれでもやり始めることができます。もちろん，若い人のほうが多少記憶力は勝っているかもしれません。

しかし，倦(う)まず弛(たゆ)まず続けていきさえすれば，続ける限り進歩していくことができます。こう考えると，外国語学習というのはかなり万人向けの，だれにでもお勧めできることのようです。さらにもう一ついい点を挙げてみますと，古典語と呼ばれるものはさておき，さまざまな外国語は今もある国や地域の人々に使われているものなので，私たちは「学んだものを使う楽しみ」を味わうことができます。

私にとって御縁があり，今まで続けてきた外国語は中国語です。時には進歩していることが実感できず，「もう，いいや」とやめたくなったこともありました。しかしそれでも続けてきたのは，やはり一つには，中国語が非常に魅力的な言葉で，汲めども尽きぬ興味を感じることができたからです。そしてもう一つには，中国語を勉強してそれをちょっと使えるようになったおかげで，本当にたくさんの楽しい，そして面白い経験をすることができたからだと思います。そんな中国語と中国語を学ぶことについて，これからお話ししていきたいと思うのです。そして皆さんがこの本を読み終わったときには，「よーし，中国語を勉強するぞ！」と思っていただきたいし，かつてやりかけて挫折した方には，「もう一度チャレンジしてみるか。」と決意も新たにしていただけたら，と心から願っています。

2010 年 3 月

著　者

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

目　次

はじめに……3

Ⅰ　中国語の基礎知識

1．どこで，どんな人々によって使われているのか……8
2．“普通话”（プートンホア：共通語）ができるまで……17
3．漢字，そしてその読み方
　——「拼音（ピンイン）」と「簡体字」……19
4．中国語のしくみを見てみると…——発音，語彙，文法……26
　発音（韻母になる母音〔単母音・複母音・-n，-ng のついた母音・そり舌母音〕／声母になる子音／声調）　26
　語彙　41
　文法　58

【コラム】
▶挨拶だけで，これだけのことがわかる……93
　你好。Nǐ hǎo. ニーハオ「こんにちは」　93
　谢谢。Xièxie. シエシエ「ありがとう」　94
　对不起。Duìbuqǐ. トゥイプチー「すみません」　95
　再见。Zàijiàn. ツァイチェン「さようなら」　96
▶数字だけで，これだけ練習ができる……97
　1 ～ 10 の発音を確かなものにしましょう　98
　11 ～ 99 を言ってみましょう　99
　年月日を言ってみましょう　101
▶「十二支」からこんなことがわかる……102

Ⅱ　効果的で効率のよい学び方

1．中国語の力をつけるには，具体的にはどんな方法があるのか……110
　独学の道　110
　通って学ぶ　113

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ネイティブの先生か，日本人の先生か　*114*
クラスの大切さ　*115*

2．具体的にはどうやって力をつけていけばいいのか……*118*

何よりもまずは「発音」！　*118*
「話す力」をどうやってつけるか　*123*
「読む力」をどうやってつけるか　*136*
「聞き取る力」をどうやってつけるか　*139*
「書く力」をどうやってつけるか　*144*
「単語力」をどうやってつけるか　*148*

【コラム】

▶**「ことわざ」も，もとをたどれば…**……*155*

五十歩百歩／虎の威を借る狐／井の中の蛙大海を知らず／矛盾（むじゅん）／蛇足（だそく）

Ⅲ　異文化体験談

異文化体験談……*160*

本当にさまざまな「中国語」　*160*
こう聞こえた各地の言葉　*162*
見てわかることも言っている　*163*
はじめて聞いた中国語，はじめて見た中国語　*165*
タブーは音から　*166*
“中国同学 Zhōngguó tóngxué チョングオ トンシュエ”の日本語　*168*
迷路に“迷路 mí lù ミールー（道に迷う）”　*169*
ものがなければ，言葉もない　*171*
“缘份 yuánfèn ユェンフェン”のあった中国語　*172*

【巻末資料】

音節表　*176*
おすすめ教材　*179*

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

【装丁】神田 昇和

【本文イラスト】永倉 百合子

【本文写真】
© Dinodia Photos/Brand X Pictures/ ゲッティ イメージズ（8 ページ）
© IMAGEMORE Co, Ltd./Imagemore/ ゲッティ イメージズ（17 ページ）
© PHOTO 24/Brand X Pictures/ ゲッティ イメージズ（19 ページ）
© RedChopsticks/redchopsticks/ ゲッティ イメージズ（26 ページ）
© RedChopsticks/redchopsticks/ ゲッティ イメージズ（110 ページ）
© IMAGEMORE Co.,Ltd./Imagemore/ ゲッティ イメージズ（118 ページ）
© K-King Photography Media Co. Ltd./Lifesize/ ゲッティ イメージズ（160 ページ）

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

1．どこで，どんな人々によって使われているのか

外国語を始めるにあたって，その言葉が使われている世界を頭に描いてみるのも一つの方法かもしれません。私は，そうはっきりした目的や志をもって中国語の勉強を始めたわけではありませんが，ただ，大きな国だなあ，人もものすごくたくさんいそうだ，あれほどたくさんの人と話が通じたらいいだろうなあ，と漠然と思ったような気がします。もちろん，大きな国でたくさんの人が使っている言葉ばかりありがたがるのもちょっと問題です。小さな国や数のそう多くない民族の人々にもそれぞれ独自の文化があり，私たちはそういう国や人々，そしてその文化についても，もっとよく知らなければならないでしょう。とはいっても，やはり，多くの人が使っている，というのは，言葉として確かに大きな魅力といえるでしょう。

手近に世界地図があったら，中国の所を開けてみてください。「中国」は正式には「中華人民共和国」，中国語では“中华人民共和国（チョンホアレンミンコンホークゥオ） Zhōnghuá rénmín gònghéguó”（この漢字とローマ字についてはあとでお話しします）といいます。面積は約 960 万 km^2，これは世界の面積の 15 分の 1 ほどで，日本の面積は 37.8 万 km^2 ですから，その 25 倍あまりになります。中国には 24 の省，5 つの自治区，2 つの特別行政区があります。24 の省の一つで，“熊猫（シオンマオ） xióngmāo（パンダ）”や“麻婆豆腐（マーポートウフ） mápó dòufu（マーボー豆腐）”で有名な四川省（ここも地図があったらぜひ場所をチェックしていただきたいのですが）の面積と人口が，日本の面積と人口にほぼ等しいといわれています。

この大きな国土は，よくオンドリの姿にたとえられます。といっても，口ばしにあたる部分は朝鮮半島，伸ばした足はベトナムになってしまいますから，座ったオンドリのような

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

形というべきでしょう。オンドリのトサカと顔にあたる所は，中国の「東北地方」で“**东北三省** Dōngběi sān shěng”と呼ばれる3つの省——黒竜江省，吉林省，遼寧省があり，いずれも冬には零下20度近くにもなるような寒冷な地方です。

江蘇省から広東省にかけての，ニワトリの胸にあたる部分は気候もよく，中国で最も豊かな土地で，農業ばかりでなく工業も発達し，人も富も集中した地域になっています。オンドリの尻尾からおなかの下にかけては，世界の屋根といわれる“**珠穆朗玛峰** Zhūmùlǎngmǎfēng（チョモランマ峰＝エベレスト）”を含む8,000m級の山々が連なっています。

中国は緯度にして南北50度くらいのひらきがあります。私は広東省の広州市に住んでいたことがありますが，広州ではまだシャツだけでいられるような日に，“**哈尔滨，最低温度零下五度**（ハルピンでは，最低温度マイナス5度）”というような天気予報を聞き，そのあまりの違いに驚いたものです。

寒暖の差ばかりではありません。気候もさまざまで，シベリアのような亜寒帯気候，日本人にはなじみ深い温暖湿潤気候もあれば，シルクロードのような砂漠気候，さらには椰子の茂る南の島，海南島のような熱帯雨林気候までそろっています。また，土地の高度にも大きな差があり，8,000m級の山もあれば，トルファン盆地のように，海抜より低い所もあります。

このような国土に暮らす13億以上の人々が，いわゆる「中国人」です。しかしそれは一つの民族からなる人々ではありません。中華人民共和国の憲法にも自分たちの国を「多民族国家（多くの民族からなる国）」と規定しているように，中国人のなかみは56の民族の人々です。ただし，その割合を見ますと，“**汉族** Hànzú”（漢族）と呼ばれる人々が圧倒的に多く，全人口の92パーセント近くを占めています。また歴史上，漢族が王朝を建てた時代が非常に多かったので，漢族の人々を「中国人」，漢族の言葉「漢語」を「中国語」と呼びならわしてきたのです。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

例えば，私たちが「中国人」として思い浮かべる，三国志の曹操，劉備，諸葛孔明，詩人の李白や杜甫，そして孫文，毛沢東，ジャッキー・チェン……この人たちはみな漢族です。しかし，権力を一手に握った中国女性の代表のような西太后は，漢族ではなく満族です。それは清朝自体が漢族ではなく，満族の王朝だからです。

56の民族のうち，その約92パーセントを占める漢族以外の民族をまとめて「少数民族」といいます。その中には“壮族 Zhuàngzú（チワン族）”“回族 Huízú（回族）”“蒙古族 Měnggǔzú（モンゴル族）”“藏族 Zàngzú（チベット族）”“维吾尔族 Wéiwú'ěrzú（ウイグル族）”のような，かなりの人口をもつ少数民族もいれば，人口数千人程度の，文字どおりの少数民族もいます。よくテレビで，若いタレントさんなどがあまり知られていない奥地の少数民族の村を訪ね，そこで生活体験をする番組があります。中国奥地の少数民族の村が舞台になることも多いようです。少数民族の人々の生活や文化は，今なお外国人にとってのみならず，漢族の人々にとっても未知の部分が少なくありません。しかし彼らも中国語を話しています。それは少数民族の子供たちも，学校にあがると中国語の教育を受けるからで，彼らも明日の中国の担い手であることに変わりはありません。

さらに，まだ中国語を話す人々がいます。それは中国に一族のルーツをもち，世界各地で暮らす「華僑（かきょう）」あるいは「華人」と呼ばれる人々です。1980年代のはじめのことです。そのころ中国では，まだ電話局へ行き通話の申し込みをし，（オペレーターに）相手を呼び出してもらわなければ国際電話がかけられませんでした。うす暗い電報電話局のベンチに，小柄なおばあさんが座って電話が通じるのを待っていました。聞けば，孫と話すためにベルギーにかけた電話を待っている，というのです。こんな普通のおばあさんが，そんな遠くまで国際電話をかけるんだ，ととても驚いてしまいました。実際，近場の東南アジアだけでなく，欧米，そしてアフリカに至るまで，大きな都市には必ずといっていいほどチャイナ・タウンがあります。

「華僑」と呼ばれる人々の中には，その土地の国籍をとり，完全にそ

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

の国の国民として生きようと考えていて，「仮住まい」というニュアンスのある「華僑」という呼び名を好まない人々も多くいます。しかしそれでもなお，中国人として祖先から伝わる文化と言葉は大切にし，それを自分たちのアイデンティティーのより所としているようです。このような海外に暮らす中国人も加えて，「世界で四人に一人は中国語を話している」と言われたりするのです。

私たちが「中国人」だと思っている人たちは「漢族」であることが多く，「中国語」だと思っているのは，漢族の言葉「漢語」だということは前にお話ししました。ですから，中国語の勉強のために中国へ行く留学生は，正式には“漢語進修生”と呼ばれ，中国語のテキストにも“漢語課本”というようなものが多くあります。中国で使われている言葉だから「中国語」であり，この本でも「中国語」という言葉を使ってお話ししていきますが，厳密に言うなら，それは漢族の言葉“漢語”なのだ，ということは，頭に入れておいてください。

では，私たちが「中国語」と言っている漢語とは，いったいどんな言葉なのでしょうか。まず世界の言葉を見渡してみましょう。世界には5,000もの言葉があるといわれています。その中には独自の文字をもっているものもあれば，文字をもっていないものもあります。私たちは学校で一応，英語を習いますから，英語以外の言葉でもアルファベットで書かれていると，意味はわからなくてもなんだか読めそうな気がします。しかしアラビア文字，ハングル，タイ文字，ビルマ文字などになると，模様のようにきれいですが，それがどんな音を表わし，どんな意味なのか，さっぱりわかりません。そこへいくと中国語は漢字だからなんとかわかるだろう，という人がいます。しかし，はたして本当にそうなのでしょうか。

世界の言葉を，その特徴によって大きく分けたものを「語族」といいます。最大の語族は，世界の言葉の半数近くがそのグループに含まれる「インド・ヨーロッパ語族」です。その中にまたイタリア語，スペイン語，

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

フランス語などのロマンス系の言葉，ドイツ語，英語などのゲルマン系の言葉，ロシア語，チェコ語などのスラブ系の言葉，ヒンディ語，ウルドゥー語などのインド系の言葉といったグループがあります。

「インド・ヨーロッパ語族」に続くのが「漢蔵語族」です。「漢」は中国のこと，「蔵」はチベットのことで，言語学の本ではよく「シナ・チベット語族」という語が使われています。「シナ」というのはラテン語の“Sina（中国）”からきた言葉で英語の“China”，フランス語の“Chine”ともつながっています。しかし戦前戦中の日本の，中国蔑視の風潮の中で，あえて「中国」「中国人」といわず「シナ」「シナ人」という言い方がされたのです。ですから，言語学の用語としてはさておき，日本人がこの言葉を使うと中国の人々に不快感を与える，という事実は忘れてはならないでしょう。

さて，話をもとに戻しますと，中国語は「漢蔵語族」の中の最大の言葉です。「漢蔵語族」に属する言葉には，

- 単音節の語（1 つの漢字，1 つの音節でできている語）が基本になっている。
- 音節には一つ一つ声調というものがある。
- 語形変化がなく，語の並べ方によって意味が決まる。
- ものを数える言葉がある。

といった特徴があります。中国語やチベット語のほかに，ビルマ語やタイ語もこの語族の仲間です。一方，日本語や韓国語は，歴史的にあまりにも長いこと，漢字や漢字を使った語彙が大量に中国から伝わり使われてきたため，漢蔵語族に属していると思われがちなのですが，そう簡単には言いきれないのです。その起源についてはさまざまな説があります。日本人から見ると，同じ字も使っていることだし，なんとなく日本語は中国語と親戚関係のように思えるかもしれません。しかしそうではなく，むしろタイ語などのほうが，言葉の性質から考えるとずっと中国語に近いのです。

どんな言葉も，その言葉を使う民族と同じだけの歴史があります。中

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

国の最初の王朝は紀元前21世紀にできた「夏」だといわれており，今でも中国人は，自分たちを華夏族と言ったりしますし，「華夏」という名のついたビルや会社も見かけます。「夏」については，その実体はまだよくわかっていません。

その次の「商」（私たちが世界史で習うときは，その都のあった所の地名から「殷」といっています）については，出土物も多く，殷の遺跡「殷墟」からは，当時占いをしたときの文が刻まれた亀の甲羅や動物の骨も発見されました。この刻まれていたものは「甲骨文字」と呼ばれ，そこから，どんなものをどんな字で表わしたのか，どうやって文が組み立てられていたのかをうかがい知ることができました。

この次が「周（紀元前1066～221）」ですが，紀元前770年以降は「春秋・戦国時代」と呼ばれています。この時代には，孔子や孟子などが，自分の説を説いて全国のさまざまな地方を歴訪しているのですから，当然，中国のどこへ行っても一応通じる言葉があったのだろうと想像できます。紀元前221年には中国初の統一王朝，秦ができました。秦の始皇帝は，郡県制という制度を作り，全国を統治したことで知られています。中央から地方へ役人がつかわされ，戸籍を作ったり，税を取り立てたりしたのです。

中国語のもとになったのは，「中原（Zhōngyuán）」と呼ばれる，黄河の中流から下流にかけての地域の言葉だといわれています。地図を見ると，商の都 — 殷（現在の河南省，安陽の近く），秦の都 — 咸陽（陝西省咸陽），漢の都 — 長安（現在の陝西省西安），洛陽（陝西省洛陽），と都はいずれも中原にあります。このあたりに，つぎつぎと建てられた漢族の王朝の中心地がありました。そしてここから全国に派遣されていった役人たちは，それぞれの任地で，土地の人々と苦労してコミュニケーションをはかったにちがいありません。しかし，中国語の文字「漢字」が意味を表わす表意文字だったため，書かれたものは読めばわかったのです。もちろんそれは字を知っている人たちの間の話です。

皆さんは「科挙」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

「科挙」は中国の官吏(かんり)登用試験で，制度として整ってきたのは隋・唐の時代からだといわれています。元(げん)の時代に一時期行なわれないこともありましたが，それは例外的なことで，漢族の王朝ではなかった清朝(しんちょう)も熱心に漢族の文化を吸収し，科挙も行なったため，科挙は清末(しんまつ)まで存続することになりました。

この試験は，原則的にはすべての人々に開かれており，合格すれば一瞬にして人生が変わってしまうようなものでしたから，中国全土の秀才がこぞって挑戦しました。「秀才」という我々もよく使っている言葉も，実は宋(そう)の時代の科挙受験者のことをいったのです。科挙の問題の難しさと合格倍率の高さは今の受験の比ではなく，何日か狭い個室で缶詰め状態になって行なわれる試験は熾烈(しれつ)を極め，数限りない悲劇や逸話が伝えられています。科挙は省や州で行なわれる第一次試験，都での第二次試験，そして皇帝の前での最終試験，と段階を踏んで行なわれました。最終試験に合格し，国家官僚になれた人はごく少数でしたが，科挙の途中まで進めただけで，周囲からは尊敬の目で見られました。そういう人々は自分のふるさとで塾を開いたり，お金持ちの家に雇われて一族の子弟に科挙の受験のための勉強を教えたりしました。科挙の試験課目の中でも，詩を作ること，文章を作ることには高いウエートが置かれていたので，ますます言葉の勉強が重んじられるようになったのです。

このような歴史的な事実も，書き言葉の範囲でとはいえ，広い中国に「正統な」中国語を普及させる一つの要因になったといえるでしょう。話し言葉のほうも，漢族王朝の統治する範囲が拡大していくにつれて，漢族の言葉，漢語が浸透していったようです。これだけ大きな地域に，一つの言葉ということ自体，不思議なことですが，それはとりもなおさず，漢語の強い力を表わしているということなのです。

しかし，発音や語彙，文法，特に発音は地域間で大きく違ったものになっています。それが「方言」といわれるものなのですが，中国には大きく分けて次の７つの方言があります。（　）の中はその方言が話されている主な地域です。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

・北方方言（中国の北部と西南地域）
・呉方言（上海の周囲と浙江省）
・湘方言（湖南地方）
・赣方言（江西地方）
・客家方言（四川，広西，広東，福建の客家の人々の間）
・闽方言（福建と南部の沿岸地方）
・粤方言（広東，広西地方，海外の華僑社会）

北方方言の代表は北京語，呉方言の代表は上海語ですが，例えば，この二つの方言は話してみると，ヨーロッパならドイツ語とオランダ語ほど違う，などとよく言われます。それで，「北京語」「上海語」「福建語」「広東語」などと，まるでそれぞれが独立した言葉のように言うのです。北京出身の人が上海へ行って上海語を聞いてもわからないでしょうし，上海出身の人が広東へ行って広東語で話しかけられても，やはりさっぱりわからないのです。

一つ例を挙げてみましょう。1 から 10 までの数字の発音です。

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
北京語	イー	アール	サン	スー	ウー	リ(ョ)ウ	チー	パー	チ(ョ)ウ	シー
広州語	ヤッ	イー	サーム	セイ	ンー	ロッ	ツァッ	パー	カウ	サップ

上が北京語の発音，下が広州語（広東語）の発音です。外国語の発音を片仮名で書いてもあまり正確な音は表わせませんが，それでもだいぶ違う音だということはおわかりになるでしょう。「アール　アール　リ(ョ)ウ　チ(ョ)ウ」（北京語）と「イー　イー　ロッ　カウ」（広州語）が，同じ「2269」という数のことだとは，とても信じられないでしょう。発音の違いから生じる誤解は，中国の漫才や笑い話の格好の材料になっています。また，北京人なのに広州語がわかったり，上海人なのに福建語が話せる，となると外国語ができるようで，ちょっと鼻高々なことなのです。

私は「食は広州にあり」で有名な，食べ物がともかくおいしい広州の

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

大学で，日本語の教師をしていたことがあります。広州は広東省の中心です。広東だから広東語と思いがちですが，そう簡単にはいきません。よく「広東語」と呼ばれているのは，広東の中心地，広州の言葉「広州語」のことで，広東省にはこの広州語のほかに，北から南下してきて比較的辺鄙な所に住みついた客家（はっか）人の言葉「客家語」，潮州（ちょうしゅう），スワトウ（汕头）などで使われている福建語系の言葉「潮州語」などがあります。それらの言葉がさらにまた細かく枝分かれしており，極端な場合，川一つ越えて隣村へ行けば言葉が違ってしまうという所もあるそうです。

私のクラスには広東省の各地からやって来た学生がいましたが，それぞれが故郷で使っていた言葉は違い，共通語（これについてはあとでお話ししますが）を使ってもそれぞれ強いなまりがあってなかなか不便なようでした。「みんな一斉に習い始めた日本語で話すほうが案外よく通じる」と言った学生がいましたが，これもまったく冗談と言い切れないものがありました。自分のまわりを見渡しただけでも，こんなに複雑な状況なのですから，広い中国全土の言葉の複雑さを思うと，頭が混乱してしまいそうです。しかし，お父さんが客家人でお母さんが潮州人の広州に住む子供は，お父さんとは客家語，お母さんとは潮州語，学校では北京語を基礎にした共通語，町では広州語，と器用に使い分けています。そこまで多くなくても，二つや三つの言葉を当たり前のように使いこなしているバイリンガル，トリリンガルの子供がふつうにいるのには驚かされてしまいました。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

2.
“普通话”（共通語）ができるまで

国は広いし，方言はお互いに外国語ほど違う，しかもそれぞれの方言の中にはさらに細い枝分かれがある。こういう状況の中で，「中国に一つの言葉を」というのは中国人にとって切実な願いでした。近代国家にはきちんと整備された国語が必要だ，という考えからも，全中国に共通な言葉を定めることは差し迫った問題だったのです。

1949 年に中華人民共和国が成立すると，それは優先的に解決しなくてはならない重要な課題となり，多くの専門家や研究者が組織され，研究が続けられて「漢語の規範化」ということが盛んに言われました。「規範化」とは「これが手本ですよ」というモデルを打ち出すことで，これにそってみんなが標準的な共通語を学んでいこう，というわけです。それには基礎になる言葉を決める必要がありました。中国では 13 世紀の元（げん）から北京が都である時期が長かったため，言葉も自然と北方方言の北京語が，あくまでも公の場の言葉としてではありますが，全国に普及していました。ですから，共通語は北京語を基礎にしたものにしよう，とするのは，当然の成り行きだったと考えられます。「新中国（中国では「中華人民共和国」のことを「新中国」といいます）」の建国に功のあった人たちの中には，上海や広東など，南の出身者がたくさんいました。その人たちの中には，北京語を共通語の基礎にすることには大いに意見もあったようです。しかし多くの議論を経て，1955 年，ついに次のように規定された共通語が誕生し，“普通话（プートンホア） pǔtōnghuà”と呼ばれるようになりました。

“普通话”は…

- 語の発音は，北京語の発音を基準とする。
- 語彙は，北京方言のものを基準とする。
- 文法は，典型的で手本にするにふさわしい現代口語文で書かれた作品の文法を基準とする。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

“普通话”といっても「普通の話」ではありません。“话”は日本語の「～語」にあたり，つまり“普通话”とは，「どこででも普遍的に通じる言葉」という意味です。普通话が北京語の発音，北方方言の語彙をもとにしたといっても，それはあくまでも基準なのであり，北京語＝普通话というわけではありません。あまりに地方色の濃い北京語の語彙や発音は除外されました。このような事情は，日本語の標準語は京都や大阪の言葉ではなく東京の言葉を基準にした，でもだからといって東京弁＝標準語ではない，というのと似ているかもしれません。こうして，「中国に一つの言葉を」という願いは，具体的な一歩を踏み出したのです。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

3.
漢字とその読み方
——「拼音（ピンイン）」と「簡体字」

“普通话（プートンホア）”は決まりましたが，これを普及させていくうえで解決しなければならない問題がまだありました。中国語はもちろん漢字で書かれ，それを読むのですが，その漢字というのが決してやさしいものではありません。長い間，漢字は，役人やインテリ，そして多少なりとも学ぶ機会のあった人々の間で使われていましたが，字を読んだり書いたりすることとは，一生，縁のない人々も非常に多かったのです。

20 世紀になって「漢字はいずれアルファベットに取って代わるだろうし，そうならなければだめだ」という主張もありましたが，結局，漢字はなくなることなく今に至っています。漢字を使い続けるとなると，新中国の共通語“普通话”を全国に浸透させるには，なんとしてもすべての中国人が漢字を正しい読み方で読めるようにしなくてはならず，それには，字の読み方を表わすものが必要だったのです。

中国には昔から，「反切」という字の読み方を表わす方法がありました。これは二つの字を用いて，前の字の母音と後ろの字を組み合わせて一つの字の読み方を知るやり方です。例えば，

德 de ＋ **紅** hong → **東** dong

「德」の字の頭の子音“d”と「紅」の字の母音“ong”を合わせたのが「東」の字の音“dong”になる，という説明のしかたです。「石（いし）」の「い」と「鹿（しか）」の「か」で「いか」というようにいい表わすのです。これは素朴ですが，なかなか実用的なやり方です。しかし使う字の正しい読み方を知らなければ，どうにもなりません。

清の終わり頃からさかんに漢字改革が叫ばれ，やはり漢字の読み方を表わす方法が考えられ，「注音字母」というものが使われるようになりました。それは次のようなものです。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

a → ㄚ	e → ㄜ	o → ㄛ	u → ㄨ
ao → ㄠ	ai → ㄞ	ou → ㄡ	en → ㄣ
p → ㄆ	m → ㄇ	b → ㄅ	f → ㄈ
d → ㄉ	t → ㄊ	n → ㄋ	l → ㄌ
zh → ㄓ	ch → ㄔ	sh → ㄕ	r → ㄖ

これを組み合わせ“mao”なら“ㄇㄠ”，“nen”なら“ㄋㄣ”，“ta”なら“ㄊㄚ”と表わすのです。大きな辞書だと，今でもこの注音字母が載っています。私が中国語を勉強し始めたころは，この注音字母も習いましたが，暗号みたいで秘密の手紙でも書けそうで面白いなあ，と思ったものです。

発音の表わし方についても多くの討論を経て，1958年に「漢字拼音方案」という形にまとめられ，アルファベットを使って漢字の発音を表わすことになりました。“拼”は「つなぎ合わせる，つづる」，つまり，“拼音”はアルファベットのa，b，c…などを並べてつづり，それで音を表わすということです。中国の新聞や書籍は原則的には横書きになったので，わからない字の発音をちょっと行間に書きこんだりするのには，このアルファベットを使った“拼音”はとても便利です。

中国で使われている小学生の国語の教科書を見ると，はじめは“拼音”だけで，それから“拼音”と漢字，そして漢字に必要に応じて“拼音”がつき，最後は“拼音”なしの漢字だけ，という順で勉強が進められています。中国語の勉強を始めた皆さんから，「中国語なのに漢字を使わないんですね」とか「英語が苦手だから中国語を習うことにしたのに，またアルファベットですか」などと言われることがあります。横文字が苦手という年配の方も少なくありません。確かに“拼音”を覚えなくてはならないと考えると，ちょっと気が重いかもしれません。また，“拼音”に使うアルファベットは，中国語の音を表わすために借りてきたものですから，我々の想像と違う読み方をするものもあるため，戸惑ってしまうのです。しかし中国語にじっくり取り組んでみよう，と思われたのなら，ぜひ拼音が読めるようにしていただきたいのです。拼音を使って辞

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

書をひけば，どんな字でも読めるようになるからです。なかには，中国語にまずはなじんでいただくために，あるいはアルファベットが急に出てくることに抵抗感をもたないでいただくために，片仮名で読み方を書いた教材もあります。しかし，これはあくまでも苦肉の策です。

本書の巻末（176ページ～178ページ）に，中国語の音節表をつけておきましたので，ご覧になってください。音節表にはずいぶん空いている所があることに気づかれましたか。それは，空いている所の音で発音するような字が，今の中国語にはないということです。私たちは今，使われている字の発音ができればそれでいいのです。

発音の表記のほかに，漢字そのものにもさまざまな問題がありました。例えば，**「漢字の量があまりに多い。」「画数が多すぎて複雑な字体のものが少なくない。」「読み方が統一されていない字がある。」「一つの意味を表わすのに，字体の異なる複数の字がある」**などです。漢字は中国人にとっても難しいものです。日本語だと，漢字が書けなくてもひらがなで書けばなんとかなりますが，仮名のない中国ではそうはいきません。「漢字が書けない人＝字が書けない人」になってしまうのです。そこで，新中国ができると，これも多くの専門家たちが組織され，研究，議論，検討を重ね，大胆な漢字のスリム化がはかられることになりました。

例えば，“群”と“羣”，“峰”と“峯”は，いずれも意味は同じですが字体が違います。こういう場合，書きやすいほうの字（前の字なら“群”と“峰”）をとり，そうではないほうは使わないことにしました。このように，意味は同じで字体が異なる字を「異体字（いたい）」といい，辞書には本字の後ろに（　）がつけられ，異体字が並んでいます。「まど」を表わす“窗 chuāng”をひくと，（窻，窓，窻，牕，牕）とあり，日本語で使われている「窓」も今は使われていないけれど，中国語にもあるのだ，ということがわかります。このたくさんの「まど」の中で一番使いやすそうな“窗”が選ばれたのです。

さらに大胆なやり方は，画数の大幅な削減と字体の簡素化でした。まず，部首を簡単にしました。（　）は画数です。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

言（7）	→ 讠（2）		食（9）	→ 饣（3）	
門（8）	→ 门（3）		金（8）	→ 钅（5）	
貝（7）	→ 贝（4）		魚（11）	→ 鱼（8）	
馬（10）	→ 马（3）		車（7）	→ 车（4）	

これだけでも，漢字の画数はかなり少なくなります。しかし画数削減，字体の簡素化はこれにとどまらず，字そのものがそれまで漢字を知っている人たちをアッと驚かせるほど，簡単なものになったのです。どうやって新しい字体を決めていったのか，それには次のようなやり方がありました。

❖ 昔から民間で使われていた字体の簡単なものを使う。

（辦）→ 办　（頭）→ 头　（當）→ 当
（權）→ 权　（團）→ 团

❖ 字体の簡単な古字を使う

（箇）→ 个　（衆）→ 众　（萬）→ 万

❖ もとの字の一部をとって使う

（務）→ 务　（殺）→ 杀　（習）→ 习
（開）→ 开　（廣）→ 广　（婦）→ 妇
（滅）→ 灭　（術）→ 术　（豐）→ 丰

❖ もとの字の草書体を印刷体にして使う

（馬）→ 马　（書）→ 书　（為）→ 为
（車）→ 车　（東）→ 东

❖ 意味を考え新しい字を作る

（陽）→ 阳　（陰）→ 阴　（隊）→ 队
（塵）→ 尘　（孫）→ 孙

❖ 同じ音で字体が簡体なものを部分的に使う

（藝）→ 艺　（機）→ 机　（溝）→ 沟
（構）→ 构　（遠）→ 远

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

もとの字の一部を取って使うといっても，（務）は偏は取り去り“务”とし，（殺）は左側だけ残し“杀”としています。（開）→“开”のように中だけ残したものもあれば（廣）→“广”や（飛）→“飞”のように外側を残したものもあります。（豐）にいたっては日本の新字“豊”の簡略化を通りこし，ごく一部をとって「横，横，横，縦」の“丰”とし，なんと18画から4画になったのです。草書体を印刷体にして作った字は，お習字を習い，しかも草書体が書ける人にとっては理解しやすいものでしょう。書→书→书，もとは草書体でも，ㄱ彐书书と直線的に書かなければなりません。意味を考えて新しい字を作ってしまうというのは，なかなかユニークな発想です。

中国には，古来より万物を“陰”と“陽”に分けるという考え方があります。“陰”の代表は「月」，“陽”の代表は「太陽」，それで“陰”は“阴”，“陽”は“阳”という字にしたのです。“塵（ちり，ほこり）”は土のごくごく小さいものですから“尘”，“孫”は子供のさらにもう一代小さい世代なので“孙”，こうなるとまるでクイズのようです。“溝”という字は“沟”にしました。日本語の音読みからもわかるように「溝・構・購」はどれも同じ音で，つくりはどれも“冓”がついています。中国語でもみな“gou”という発音です。そこで“gou”という音で画数も少ない“勾”の字を“冓”の代わりに使うことにしたのです。これらの字を見ると，音は“gou”，そして水に関係があるなら“沟（溝）（みぞ，谷間，水の流れ）”，お金に関係があるなら（昔は貝殻をお金として使っていたので）“购（購）（買う）”，木偏をつければ「わくぐみ」を表わす“构（構）”だとわかるのです。

話が長くなってしまいましたが，このような漢字の簡素化は1955年“漢字簡化方案”として発表され，1956年からはこの方案に基づいて定められた新しい漢字“簡体字（かんたい）（簡化字）”が使われるようになりました。簡体字に対して本来の字は“繁体字（はんたい）”と呼ばれています。簡素化して作られたとはいえ，“簡体字”は現在，中国の正式な字（正字）であって，決して略字ではありません。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

では，今までに出てきた中国語の単語を簡体字にして拼音も書いておきましょう。

中華人民共和国 → **中华人民共和国** Zhōnghuá rénmín gònghéguó
中国人 → **中国人** Zhōngguórén
漢族 → **汉族** Hànzú
漢語 → **汉语** Hànyǔ
普通話 → **普通话** pǔtōnghuà
拼音 → **拼音** pīnyīn
簡体字 → **简体字** jiǎntǐzì

日本語の漢字には旧字と新字があります。例えば，大学の校章や証書に書かれている「學」という字，これが旧字で，現在では新字の「学」が使われています。日本の旧漢字は中国の繁体字と同じであることが多いのですが，日本の新漢字は中国の簡体字といつも同じとはいえません。広州で「広」という字を知らない人もいました。

日本…… 旧漢字「**廣**」→ **新漢字「広」**
中国…… 繁体字「**廣**」→ **簡体字「广」** となったのです。

また，「一こ，二こ」の「こ＝個」は，繁体字では今，日本語で使われている“**個**”なのですが，これには“**箇**”という異体字があります。日本語も「箇条書き」というときにはこの字を使います。“**個**”の簡体字は“**个**”という屋根に縦一本の面白い形をしています。これは，実は昔使われていた字を復活させたものです。この“**个**”という字は昔，日本にも伝わって来たのです。今ではあまり見かけなくなりましたが，八百屋さんなどの「三ケ 200 円」の「ケ」はこの“**个**”から来たそうです。漢字をながめていると，日本と中国の深い縁（えにし）を感じないではいられません。

漢字の簡素化は当初，さらに進めていくことが考えられており，現にもっと新しい簡体字も考案されていました。しかし極端な簡素化，簡略

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

化は，かえってわかりづらい字を生み出しかねないと考えられ，その動きは今も中断したままです。簡体字が現われたときには，「漢字が表わしている意味がわからなくなってしまう」と心配する意見もありましたが，識字率を上げ普通話を普及させていくためには，こうした思いきった改革を行なわなければならなかったのではないでしょうか。

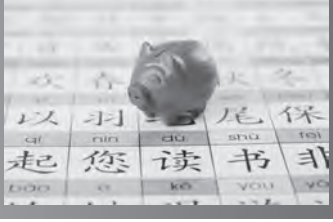
現在，中国では学校教育も簡体字で行なわれ，新聞や出版物も簡体字を使っており，簡体字は完全に中国に根づいたといえます。同じ中国人社会でも，シンガポールでは早くから簡体字が使われた一方，台湾や香港では繁体字が使われています。これらの地域からの旅行者や投資も増えているため，名所旧跡の案内書や説明書などには，簡体字版と繁体字版の両方が用意されるなどの配慮がなされています。

では，ここでちょっとまとめてみましょう。私たちが「中国語を勉強する」というときの「中国語」とは，「漢蔵語族」の中の“**汉族** Hànzú（漢族）”の言葉“**汉语** Hànyú（漢語）”のことで，しかも，中華人民共和国の建国後に定められた共通語，“**普通话** pǔtōnghuà（普通話）”です。“**普通话**”は，北京語の音，北方方言の語彙が基礎になっています。そしてその発音は“**拼音** pīnyīn”と呼ばれる中国式アルファベットで表記され，“**简体字** jiǎntǐzì”という新しい漢字が使われています。

そして，私たちがそれをがんばって勉強していけば，地球上の４～５人に一人とは話ができるようになるのです。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

4.
中国語のしくみを見てみると…
—— 発音，語彙，文法



中国語がどんなしくみでできているのか，**発音**，**語彙**，**文法**からみていきましょう。「語彙」とか「文法」とか聞いただけで，「勉強しなくては」と急に身構えてしまう人もいるでしょう。しかし平たく言えば，「発音」は「どうやって音を出すのか」，「語彙」は「どんな言葉が使われているのか」，そして「文法」というのは「文はどう組み立てて作るのか」ということなのですから，「難しそう！」と弱気になるには及びません。言葉の特徴をよく理解し，ここが大切という要所要所をしっかりつかんでおけば，その後の学習は，きっとスムーズに進んでいくでしょう。

発　音

「中国語を勉強したいのだけど，べつに話したりはできなくても，読めればいいんだ」という人もいます。何かの必要で中国語の資料や文献にあたらなければならず，そのためにちょっと勉強しなければならない，という場合は別ですが，そうでないなら，やはり読めるだけでなく，発音できて，話もできるようになることを，ぜひ目標にしてください。

中国語で中国の人たちと話ができたら，それは楽しいですよ，という理由もありますが，もう一つの理由として，どの言葉にもいえることですが，音として発声してこそ，その言葉は命をもったものになるからです。

例えば，“**热**（熱）”という字を見れば，日本語とほぼ同じ字ですから，「熱い」ことだろうとわかります。しかし“rè ルー”と読んではじめて中国人が「熱い」と感じているその気持ちが伝わってきます。“**好**”だって「よい」ことは「よい」のですが，“hǎo ハオ”と声に出してこそ，中国人の「いい！」という心の表われがわかるのです。

「中国語は文法はやさしいけれど，発音が難しい」。これは中国語につ

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

いて言われる決まり文句になってしまったようです。「文法はやさしい」のかどうか，その真偽はさておき，発音についていえば，確かにそうやさしくはありません。始めてみて難しいと感じる人が多いようです。しかし語学の教師の立場から言わせていただくと，難しくて当り前なのです。若い学生の皆さんでも二十年近く，大人だったら何十年も使い慣れてきた母国語と，使う音域も，使う筋肉も微妙に異なる発音をしなくてはならないのですから，ほかの外国語を始めるときも同じだと思いますが，この辺の「覚悟」は大切なのではないでしょうか。

では，中国語の発音がなぜ難しいのか，に話を戻しましょう。一つには，発音するにあたって気をつけなければならないチェックポイントがたくさんあるためです。発音というのは一種のコントラスト（対比）です。口を横にひいているかいないか，口をとがらせているかいないか，発音するときに息が出るか出ないか，それによって発せられる音は違ってきます。そして音の違いは，表わす意味の違いになります。この「違い」を意識するかどうかは，言葉によって異なります。

日本語で「しっかりしてよ」と言うとき，「し」の所は息を出して言ってもいいし息を出さなくてもかまいません。どっちでも「しっかりしてよ」という同じ意味になります。ところが，あとで詳しくお話ししますが，中国語では同じ音でも，息が出るか出ないかで違う言葉になってしまいます。

意味をもつ最も小さな音のまとまりを「音節」といいますが，中国語ではふつう，1つの字が1つの音節をもっていて，それが1つの意味を表わします。なにか食べようというとき，日本語なら「た・べ・る（ta・be・ru）」と3つの音節で，ていねいに言うなら「た・べ・ま・す（ta・be・ma・su）」と4つの音節で言い表わします。しかし中国語では，“**吃** chī（食べる，食べます）”，主語をつけても“**我吃。** Wǒ chī.（私は食べます）”と2音節ですんでしまいます。同じ内容を言おうとすると，中国語のほうが使う音節はぐっと少ないのです。ということは，中国語を話すときは，少しの音節で自分の言いたいことを相手にわかってもらわなくては

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ならず，中国語を聞くときには，やはり少ない音節から相手の言ったことを理解しなければならないということです。あまり日本語のうまくない外国人が「タビマス」と言ったとしても，私たちは「た」や「ます」の音をヒントにして「ああこの人は『タベマス』と言おうとしているんだな」と推測できます。しかし私たちが「食べる」と中国語で言うときは“chī”という１音節でわかってもらわなければなりません。まさにワンチャンスです。ですから中国語では，発音には細心の注意が必要ですし，それだけ一つ一つの音節が複雑な音，特定の意味を表わしているといえるのです。

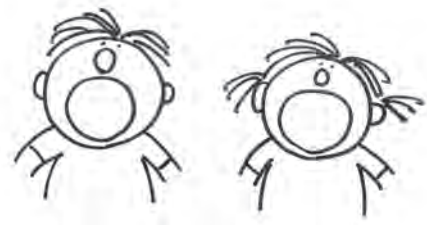
では，発音の中味をもっと詳しくみていきましょう。

韻母になる母音

中国語の音節も**母音**（ぼいん）と**子音**（しいん）からできています。音節のはじめにくる子音のことを中国語で“**声母** shēngmǔ（声母（せいぼ））”といい，それ以外の母音の部分を“**韵母** yùnmǔ（韻母（いんぼ））”といいます。

では，「韻母」になる母音からみていきましょう。母音の中でも基本となるのは［a，o，e，i，u，ü］の６つの単母音です。母音は，実際に音となって口から発するもの表わします。つまり，母音がなければ何の音もしないのです。単母音はそういう母音の基本です。ですから，正確に単母音を発音できるようになることが，中国語の発音の実質的な「はじめの一歩」といえるでしょう。

６つの単母音は，次のように発音されます。

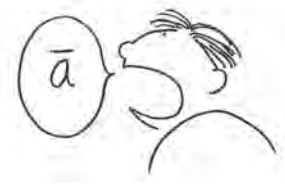


本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

◆ 単母音

a	日本語の「ア」よりも口をもう少し大きく開けて「アー」と，はっきり言う。
o	日本語の「オ」よりも口をまるくして「オー」と言う。
e	口を半開きの状態にして，のどの奥で「ウー」と言う。日本語の「エ」と「オ」の中間の感じ。
i	口を思いきり横に引っぱり「イー」と言う。
u	日本語の「ウ」よりも唇をもっとまるめ，突き出すようにして「ウー」と言う。
ü	唇をすぼめて，しかもまるめもしているような形で「ユー」と言う。「ヒュッテ（山小屋）」と言うときの「ヒュッ」の部分の音に似ている。

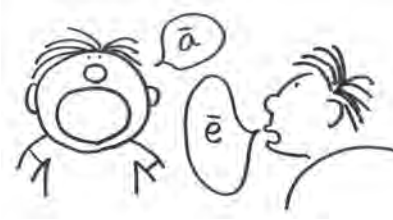
発音を練習するときは，自分がいつも話をしているときの声よりやや高い声でまっすぐに発音してください。あとで声調についてお話ししますが，中国語の発音には，いつもの話し声より少し高い所で音を出さなければならないものがあります。ですから，その準備運動として，ちょっと高めに“a”なら「アー」，“o”なら「オー」と言ってください。中国語の単母音は，完全な長音とまではいきませんが，少し長めに発音します。



また，「アッ」「オッ」というように，のどをつめるようにして音が終わる発音は，今の“**普通话** pǔtōnghuà（普通話）”にはありません。単母音をながめてみると，“a”“o”“i”“u”は，なじみがあるような気がします。教室でも，学生の皆さんが「わあ，難しい」と思うのは，のどの奥で出す“e”や「ヒュッテ」の“ü”のようです。しかし，それまで見たことも聞いたこともないものというのは，かえってよく注意して勉強

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

するらしく，一度コツさえつかめば，結構正確に発音できるようです。反面，“a”“o”“i”“u”の発音のほうが，どうも日本語風になってしまうのです。日本語に似た音があるにしても，あくまでもこれは中国語の“a”なのだ，中国語の“o”なのだ…としっかり意識して発音するようにしてください。



◆ 複母音

単母音が2つあるいは3つ結びついて一つの母音を形づくっているものを「複母音」といい，普通話には次のような13個の複母音があります。

ai	ei *	ao	ou	
アィ	エィ	アォ	オゥ	
ia	ie *	ua	uo	üe *
ィア	ィエ	ゥア	ゥオ	ュエ
iao	iou	uai	uei *	
ィアォ	ィオゥ	ゥアィ	ゥエィ	

＊複母音中の“e”は他の母音に影響され，単母音の発音ではなく日本語の「エ」に近い発音になります。

複母音を発音するときには，一つ一つの単母音を正確に発音し，しかもそれらがバラバラにならないで一つの母音として聞こえるようにしなければなりません。中国の小学生たちも“a－i－ai（アー・イー・アイ）”“a－o－ao（アー・オー・アオ）”と，大きな声で複母音の発音練習をしています。

“ai”“ei”“ao”“ou”の4つは，口の開き方が［大→小］となっています。これに対して，“ia”“ie”“ua”“uo”“üe”は，口の開き方が［小→大］となっています。3つの単母音からなる複母音は，どれも口の開き方が［小→大→小］となります。一番大きく口を開けて発音する所が

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

一番主な母音，主母音ですが，主母音以外の母音をおざなりにすると，いかにもメリハリのない発音になってしまいます。例えば，“uai”なら口をとがらせた“u”ではじめ，主母音“a”はしっかり大きく口をあけ，すみやかに口を横に引いて“i”で終わる，という動きです。顔の筋肉が鍛えられることは間違いありません。

◆ -n，-ng のついた母音

中国語にはもう一種類“-n”“-ng”のついた母音が 16 個あります。この母音は“-n ／ -ng”つきで，一つの母音です。

an	en *	in	ian	uen *	uan	üan	ün
アン	エン	イン	イエン	ウェン	ウアン	ユアン	ユン
ang	eng	ing	iang	ueng	uang	ong	iong
アん	ウん	イん	イアん	ウォん	ウァん	オん	イオん

便宜上，“-n”で終わるものは「－ン」，“-ng”で終わるものは「－ん」と書いておきました。

この“-n”と“-ng”の発音の違いはどこにあるかというと，例えば，“an”と“ang”で比べてみると，“an”のほうは「アン」と言い終わるとき，舌先を上歯ぐきの裏につけて音を止めるようにします。それに対して“ang”は，出だしは“an”と同じですが発音し終わるとき，口は開けたままにしておきます。“an”の発音で最後に下あごがちょっと上へ上がるのとは対照的です。

私が昔習ったときには，“an”は「あんない」の「ん」，“ang”は「あんがい」の「ん」と教わりました。「けんてい（検定）」の「ん」，「トンネル」の「ン」は「-n 型」，「かんがえる（考える）」，「はんが（版画）」の「ん」は「-ng 型」です。日本語だったらどちらも「ん（ン）」と書きます。ということは「ん」の発音のとき，口を閉めるのか開けたままにしておくのか意識しません。どちらでもいいといえば，どちらでもいいのです。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

しかし中国語では，“-n”の音なのか“-ng”の音なのかで違う言葉になってしまいます。「青い」と言いたいなら“蓝 lán”としっかり“-n”の発音をしなければならず，“láng”と口を開けたまま発音し終ったら“狼 láng（オオカミ）”になってしまいます。また，このグループの母音では“-n”か“-ng”かによって，前についている母音の発音が変わることもありますから，そこも注意しなければなりません。

ところで，“-n”“-ng”で終わる字の発音については，日本語でこう読む発音は中国語ではこういう音になる，という対応の規則があります。中国語でその発音が“-n”で終わる字は，その字を日本語の音読みにしてみると，ほとんど「ん」で終わるのです。“-ng”の発音で終わる字のほうは“-n”→「～ん」ほどの高い確率ではありませんが，それでもその多くの字は，日本語の音読みにすると「う／い」で終わります。

黄山　Huángshān → 黄山 こうざん
健康　jiànkāng → 健康 けんこう
访问　fǎngwèn → 訪問 ほうもん
金银　jīnyín → 金銀 きんぎん
长江　Chángjiāng → 長江 ちょうこう

これは覚えておくとなかなか便利です。

◆ そり舌母音

er	あいまいな母音の [ə]（ア）を発音しながらすぐに舌をそらせて [r]（ル）を添える。英語の“ r ”を巻き舌で発音する感じ。

そり舌母音は単独の音節となり，前には子音が付きません。例として，数字の“二 èr（2）”があります。

ほかに“儿 ér”は接尾辞として使われ，“花儿 huār”のように，単語の語尾に“儿”（前に母音がないときは -r と綴ります）を付けることがあります。この現象を「r（儿）化」と言います。北京周辺でこの傾向が強く，この場合の“儿”は独立した音節ではありません。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

声母になる子音

「声母」というのは音節の頭にくる子音のことで，その音節がどんな口の状態で発音され始めるのかを表わします。

例えば，“m”だったら，唇を日本語のマ行の発音するときより少し強めに閉め，そこから発音を始める。“l”なら舌先を上歯ぐきの裏にあて，その状態から発音開始という具合です。声母になる子音は，下の表のように21個あります。

	無気音	有気音			
唇音（しんおん）	b(o)	p(o)	m(o)	f(o)	
舌尖音（ぜっせんおん）	d(e)	t(e)	n(e)		l(e)
舌根音（ぜっこんおん）	g(e)	k(e)		h(e)	
舌面音（ぜつめんおん）	j(i)	q(i)		x(i)	
そり舌音（そりしたおん）	zh(i)	ch(i)		sh(i)	r(i)
舌歯音（ぜっしおん）	z(i)	c(i)		s(i)	

子音のあとに母音がつけてあるのは練習のためです。母音があるから音として聞こえてくるので，子音だけ練習しようとしても，なにやら口がパクパク動いているだけで，正確に発音されているかどうかわかりません。そこで，中国の小学校で子音の発音練習をするときには，習慣として（　）の中の母音をつけて発音します。ちなみに，“b(o) p(o) m(o) f(o)”は，小学校にあがった中国の子供たちが国語で最初に習うものです。ちょうど日本人にとっての「あいうえお」，英語圏の人にとっての“ABC…”のようなものといえるでしょう。

上の表で横並びになっているものは，発音するときの口の形や舌の位置から同じグループと考えられるものです。一番上の段の“b(o) p(o) m(o) f(o)”は「唇音」と呼ばれる子音で，“f(o)”は英語の“f”のように上の歯で下唇を軽くかみますが，いずれにしても唇に関係のある発音です。二段目の“d(e) t(e) n(e) l(e)”は，どれもまず舌先を上歯ぐきの裏につけ，それを離しながら発音し「舌尖音」と呼ばれます。三段目の「舌

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

根音」は，“g(e) k(e) h(e)”は舌の根もとあたりが少しあがった状態で，のどの奥から音を出します。

四段目「**舌面音**」の“j(i)”はiがついていますから口は横に引いて発音しますが，日本語の「ち」に似ています。“x(i)”もiがついていますからやはり口を横に引きますが，日本語の「し」とほぼ同じです。“j(i) q(i) x(i)”は，どれも舌の面を上あごの裏につけた状態から発音するので「舌面音」と呼ばれています。

「舌面音」と似ていてまぎらわしいのが一番下の段の「**舌歯音**」“z(i) c(i) s(i)”で，“z(i)”は日本語の「つ」を口を横へ引き気味にして発音し，同じ要領で「す」と言うと“s(i)”になります（ピンインでは [-i] と綴りますが，厳密には，単母音 [-i] ではなく，別の音価 [ɿ] という音です）。

下から二段目に並んだ“zh(i) ch(i) sh(i) r(i)”は「**そり舌音**」と呼ばれるものです。「巻舌音」ともいいます。私は昔「巻舌音」という言葉を聞いたとき，舌をくるくるっと巻いたカメレオンを思い浮かべ，面白いけれど「人間の舌が巻けるものなのか」と不思議な気がしました。そう考えると「そり舌音」という言い方のほうがわかりやすいかもしれません。これも日本語にはない発音ですが，しりごみするには及びません。

まず比較的発音しやすい“sh(i)”から発音してみましょう。「シーッ，静かに！」——この「シーッ」と言うとき，舌はいつもの位置にあります。次に舌先で上の歯の裏をさわってみてください。さらに舌先を上へずらしていくと，歯と歯ぐきの境になり，さらにもう少し上をさわると，歯ぐきの裏の少し上にがくっと段になっている所があります。そのあたりまで舌をそらせた状態で「シー」と言ってみましょう。舌がそっているので息は出しにくく，摩擦がまざったような「シー」の音になっているはずです。こうして息を出したあと，おまけのように母音の“i（イー）”（そり舌音のあとにくる [-i] は，単母音の [-i] とは違い，それほど強く口を横に引かない別の音価 [ɿ] で発音されます）を言えば，“sh(i)”の発音になります。こ

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

の音を発音している間中，舌はそらせたままです。“sh(i)”が発音できたら，その口の状態，舌の位置のまま「チー」と言ってみてください。それが“zh(i)”，さらに「リー」と言えば“r(i)”になります。“r(i)”ももちろん舌はそらせた状態で発音しますから，聞こえてくるのは澄んだ「リー」という音ではなく，摩擦音の入った「リー」です。英語の“r”は“rose”“rat”と言ってみるとわかりますが，巻いた舌をほどきながら発音します。しかし，中国語の“r”は舌はそらせたままです。「そり舌音」は中国のどこの方言にもあるというものではありません。ですからそり舌音のない方言地域の子供たちは，学校へあがると，私たちと同じように「そり舌音」の発音のしかたを習うことになります。

子音の発音ではもう一つ大切なことがあります。それは「**有気音**（ゆうきおん）（中国語では“**送气音** sòngqìyīn”）と「**無気音**（むきおん）（中国語では“**不送气音** bú sòngqìyīn”）の区別です。33 ページの表の［　］で囲まれた所には，b(o) − p(o)，d(e) − t(e)，g(e) − k(e)，j(i) − q(i)，zh(i) − ch(i)，z(i) − c(i) という 6 組，合計 12 の子音が並んでいます。この 6 組はそれぞれ同じ口の形，舌の位置で発音されるのですが，発音するときに，息を強く出すか出さないかの違いがあります。右側に縦に並んだ“p，t，k，q，ch，c”が息を強く出すほうで「有気音」と呼ばれ，“b，d，g，j，zh，z”が息を出さない「無気音」です。

「息を出す／出さない」とはどういうことなのでしょうか。“p(o)”と“b(o)”を例にして説明してみましょう。有気音の p(o) の出し方について，「息を強く出しながら「ポ」と言う」と説明されていることがあります。しかしやってみるとわかりますが，息を出すのと「ポ」という音を言うのを同時にやるというのは，できるものではありません。“p”は，閉じた唇を，息の破裂によって「プッ𠸄」と開けることを表わしているのです。ですからまず，「プッ」とかなり強く息を出す練習をしてください。息が出たら，そのあとに“o（ォ）”をおまけのように言い添えてみます。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

p ㄆ+ o（ㄛ）→po（プッ＋ォ → プォー → ポー）

まず思いきり強く息を出し，そのあとに母音をつけたす，という要領です。教室で練習するときは，薄い紙の上の部分をもち顔の前に垂らし，その下の部分に息をぶつけるようにしてみます。p ㄆと出た息でその紙の下の部分がひらっと，しかもかなり高くまで飛びあがったら合格です。この練習をすると，たいていみんなおもしろがって教室は大騒ぎです。勢いよく紙の下が舞い上がる人もいれば，かすかに紙の下が動くか動かないかという人もいます。みんなが面白がるのは，日本語では，話しているときそう息を強く出すことがないので「息を強く出す」ことが珍しいからなのでしょう。有気音の“t(e)”なら舌先で上あごの裏をけることで「タッ」と強く息を出し，そのあとに母音“e”を発音します。そして同じく有気音の“k(e)”なら，のどの奥で「クッ」と強く息を出し，そのあとに母音“e”を発音します。

日本語を話すときには息を強く出すことはそうありません。ですから，息を出さないように気をつけてふつうに「ポー」と言えば，だいたい中国語の無気音“b(o)”になり，「チー」と言えば“j(i)”，「ツー」と言えば“z(i)”になります。もちろん j(i) も z(i) も後ろについている母音は i ですから，口を横に引くことは忘れないでください。

アルファベットの“bo”を見ると「ボー」と読んでしまうかもしれません。昔の中国語には，濁音の「ボー」，無気音の「ポー」，有気音の「ポー」という 3 種類の音があったそうですが，今の中国語の普通話には濁音はありません。ですから“b(o)”は濁音の「ボー」ではなく，息を出さない「ポー」なのです。

日本語でも「桜がパッと咲いた」というようなとき，特に語気が強い場合には「パッ」の所で息が出ることもあります。しかし息は出なくてもかまいません。中国語では息を出すか出さないかはとても大事なこと

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

です。それは異なる音と意識され，ということは異なる意味になってしまうからです。よく出される例は，「おなかがいっぱいになりました」という文で，中国語ではこう言います。

肚子饱了。Dùzi bǎo le.

拼音をご覧になるとわかるように，この文には有気音で発音される言葉が一つもありません。ところがもしこれを，“Tùzi pǎo le.”と息を出して言ったらどうでしょうか。確かに“dùzi”と“tùzi”，“bǎo le”と“pǎo le”は似ていますが，“Tùzi pǎo le.”と息を出して言ったら，

兔子跑了。Tùzi pǎo le.（ウサギが逃げてしまいました）

になってしまいます。せっかくご馳走になったお礼を言うつもりが，「ウサギが逃げた」では，言われた相手も面くらってしまうでしょう。

「山口さん」も，もし中国語で自己紹介する機会があったら，有気音には，ぜひ気をつけてください。“山口”は“Shānkǒu”で“口”は有気音です。息を出しそびれて“Shāngǒu”と言ったら，“山狗（ヤマイヌ）”さんになってしまいますよ。また，“Shāngkǒu”と「山」の所を“-ng”の発音で言ったら，“伤口 Shāngkǒu（傷口）”になってしまいます。なかなか大変ですね。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

声調

「中国語には声調(せいちょう)がある」「中国語には四声(しせい)がある」というのを聞いたことがあるかもしれません。「声調」は中国語の発音の最も大きな特徴の一つです。それは一種のアクセントなのかというと，それとも違います。

例えば，外国人が日本語を勉強するときには，常に音の高低に気をつけなくてはなりません。例えば，「ありがとう」なら「り」だけが高く発音され「低高低低低」となり，「これはしんぶんです」なら「低高高低高高高高低」となります。このようなアクセントを「高低アクセント」といいます。英語では，どこを強く発音するのかを問題にする「強弱アクセント」があり，英語の試験問題によく出ますね。

「声調」は，このようなアクセントとはちょっと違います。日本語で「ありがとう」と言うとき，どこを高くどこを低くということは気にしなくてはなりませんが「あ／り／が／と／う」の一つ一つの音を発音するとき，その高さは一定です。日本語でも驚いたときの「えー（⤴）」や「まー（⤵）」，「ふーん（⤻）そうだったの」と言うときの「ふーん」などは，一つの音節の中で音のトーンが変化します。しかしこれは例外です。中国語では一つ一つの音節に，この「えー（⤴）」のようなトーンの変化がつくのです。これを「**声調**」といいます。

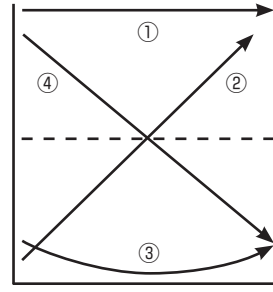
中国語の音節は，《**声母**（語頭にくる子音）＋**韻母**（声母のあとに続く母音）》でできていますが，これだけでは不完全です。それをどんなトーンで発音するのか，つまり，どんな声調で発音するのかが決まって，そこではじめて，意味のある言葉として命が与えられるのです。

声母の子音“m”と韻母の母音“a”が結びついて“ma”という音節ができますが，これだけでは何の意味ももちません。これを高く平らに発音してはじめて“**妈** mā（お母さん）”という意味のある言葉になるのです。普通話のもとになった北京語には４つの声調があるため，声調のことを「四声」という人もいます。しかし，声調の数は方言によって違います。上海語では６つ，広州語では９つといわれています。ですから声調が４つというのは，中国のさまざまな方言を考えてみると，楽なほ

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

うだ，といえるかもしれません。

次の図が４つの声調です。母音“a”を使って説明しましょう。



① 第一声 〈ā〉	ふだんの話し声よりもやや高い音を平らに出して発音する。
② 第二声 〈á〉	ふだんの話し声よりやや低い高さから声を一気に上げていく。↗と段がついてしまったり，⤴と中だるみができないように，比例直線を思い描き一気に声の高さを上げていく。とても驚いたときの「エー（↗）」にも似ている。
③ 第三声 〈ǎ〉	ふだんの話し声よりも低い高さで，まるで何かの底をさらうように低く発音する。「うーん，困った」というときの低い「うーん」や，「あーあ，疲れた」というときの低い「あーあ」に似ている。後ろにほかの音節が続いているときは，ただただ低く発音すればいい。
④ 第四声 〈à〉	第一声の高さから一気に声の高さを下げる。一気に思いきりよく発音する。「ええ」「ハイ」ときっぱり言うとき，または「カー」というカラスの鳴き声にも似ている。

声調を表わす［ ¯ ´ ˇ ` ］声調記号は，それぞれの音節の母音の上につけ，複合母音では主要な母音の上につけます。

mā bó gǔ tè diāo liáng jiān

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

声調が違うと言葉の意味が変わってしまう，その例でよく出されるのが，

妈　mā（お母さん）
麻　má（麻）
马　mǎ（馬）
骂　mà（ののしる）　です。

「お母さん」と言いたいなら，高く平らな第一声で発音しなければなりません。“mǎ（馬）”と呼んでもお母さんは来てくれません。私が中国にいたとき，一番仲のよかった人は「馬さん」という女性でした。“马 mǎ（馬）”という姓は中国ではそう珍しくありません。ちなみに，“牛 Niú”や“熊 Xióng”という姓もあります。私は馬さんを“马姨 Mǎ yí（馬おばさん）”と呼んでいましたが，私の声調が間違っていると馬さんはよく「わたしはそんなにちっちゃくないよ」と笑って言いました。彼女は堂々とした体格の人でしたから，それが“蚂蚁 mǎyǐ（アリ）”では余計おかしいのです。

声調の練習を始めると，「私はもともと声が低いのですが，だいじょうぶでしょうか」と心配そうに言う人がいます。確かに北京語は高音の美しさが一つの特徴です。北京のアナウンサーの声や漢詩の朗読などを聞くと，とてもあんな声は出せない，とどっとやる気を失なってしまうかもしれません。しかし心配無用です。中国にも声の低い人はいくらでもいますし，その人たちも中国語を話していますから。ただ，中国語の発音をしっかり学ぶつもりなら，自分がこれまで日本語を話すのに使っていた音域を，高いほうと低いほうの両方にもっと広げるようにしてみるといいでしょう。音域が狭いと，自分では声調を意識して発音しているつもりでも，狭い幅の中で ㄅㄆ とごちゃごちゃ同じような音を発しているようにしか聞こえません。それではつまり，言葉の意味がはっきりしなくなってしまうのです。

一つ一つの音の声調が正確に発音できたら，次はいくつもの音の声調をつなげてもなめらかに発音できるようにします。中国の正式な名称は

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

中华人民共和国　Zhōnghuá rénmín gònghéguó です。

声調だけ取り出してみると，

→↗↗↗↘↗↗　となります。

声調の作り出すトーンの変化が，まるで歌を歌っているようです。漢詩などは音の流れの美しさを考えてつくられていますから，有名な詩や，自分が昔学校で習って気にいった詩を使って，朗読の練習をしてみるのも，とてもいいやり方です。

語　彙

“汉语 Hànyǔ（漢語）”は「漢族の言葉」ですが，日本語にも「漢語（かんご）」があります。音読みで読む漢字の単語のことです。この「音読み」というもの自体，昔中国から漢字と一緒に日本に伝わった読み方なのですから「漢語」は一種の外来語だといえます。日本語には多量な漢語が使われており，新聞をざっと見渡しても，平仮名はそのつなぎのように使われている気さえします。また中国語は，今日まで長い歴史を脈々と生きぬいてきた言葉なので，昔日本に伝わったのと同じ言葉が，今の中国でも数えきれないほど多量に使われています。このような事情を考えると，日本人が中国語を勉強するのは，日本以外の国の人たちが勉強するよりずっと便利だといえるでしょう。

中国には世界各国からの留学生がいて，熱心に中国語を勉強しています。私もそういう留学生にたくさん会ったことがありますが，「川」のような私たちにとってはなんでもない字を「ワン，トゥー，スリー，ワン，トゥー，スリー」と書き順から練習していました。「川の字を見れば“川”のこと，というわけにはいかないんだ。こういう所から始めるんだ。えらいものだなあ」と感心してしまいました。私たちは発音こそ違いますが，小・中・高校で相当の漢字や漢語を習っているわけですから，やはり，かなり得をしていることは確かです。

中国語の語彙（単語）を日本語との関連でみていきましょう。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

衣服 yīfu（衣服）	学校 xuéxiào（学校）
感想 gǎnxiǎng（感想）	政治 zhèngzhì（政治）
利用 lìyòng（利用する）	食品 shípǐn（食品）
偶然 ǒurán（偶然）	禁止 jìnzhǐ（禁止する）

これらの語彙は発音こそ違いますが，字体は日本語と同じ，意味もほとんど同じですから，私たちにとっては一目瞭然といえるでしょう。

后悔 hòuhuǐ（後悔する）	知识 zhīshi（知識）
手术 shǒushù（手術）	干杯 gānbēi（乾杯）
杂志 zázhì（雑誌）	准备 zhǔnbèi（準備する）
运动 yùndòng（運動する）	开业 kāiyè（開業）

ちょっと見るとわからないかもしれませんが，**简体字**を繁体字にもどすと，日本語と同じになり，意味が明らかになります。

地铁 dìtiě	介绍 jièshao	西餐 xīcān
生日 shēngrì	茶杯 chábēi	篮球 lánqiú
滑雪 huáxuě	衣袋 yīdài	皮箱 píxiāng
冰箱 bīngxiāng	自行车 zìxíngchē	

上に挙げた語彙は日本語にはないのですが，一つ一つの漢字から想像すると，その意味がわかるのではないでしょうか。謎解きは，次のとおりです。

地铁 → ミスプリントではありません。中国語では「下」がとれて“**地铁** dìtiě”，「地下鉄」のことです。

介绍 → 日本語でも昔はこの言葉もあったようですが，今は字が

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ひっくり返って「紹介」です。

西餐 →「洋食」のことです。“餐 cān”がつくとちょっと改まった感じもします。ついでに,“快餐 kuàicān”は「ファーストフード」です。

生日 → これは見たとおり「誕生日」。“诞 dàn”がとれています。

茶杯 → お茶を飲む器なので「湯呑み茶碗」のことです。お酒を飲むさかづきなら“酒杯 jiǔbēi”,そして“干杯 gānbēi”で「乾杯」になります。

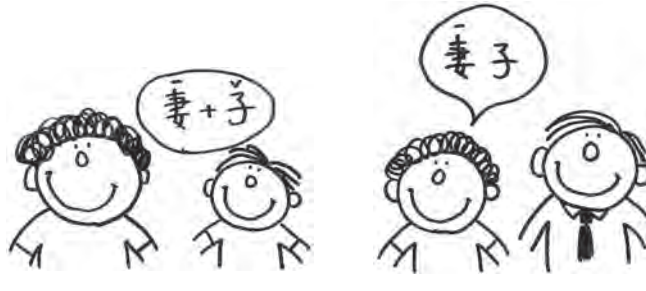
篮球 →“篮 lán”は「かご＝バスケット」なので「バスケットボール」です。“门球 ménqiú”も,これと似たつくりで「ゲートボール」です。

滑雪 → 雪を滑るので「スキー」です。氷の上を滑るのだったら“雪 xuě”の代わりに“冰 bīng（氷）”を使って,“滑冰 huábīng（スケート）”になります。

では，次の言葉はどうでしょうか。

妻子 qīzi	出口 chūkǒu	火车 huǒchē
汽车 qìchē	结束 jiéshù	猪 zhū
汤 tāng	娘 niáng	麻雀 máquè

妻子 →“qīzǐ”と両方の字に声調をつけて言うと「妻と子」ですが,“qīzi”と“子”を軽声で言うと「妻」になります。



本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

出口 →“出口”には「出口」の意味もありますが「輸出（する）」という意味でよく使われます。ついでに，「輸入（する）」は“进口 jìnkǒu”，“进出口公司 jìnchūkǒu gōngsī」で「輸出入会社」です。

汽车 →「自動車」。火车→「汽車」。これはまぎらわしいですね。中国語の“汽车”は「自動車」のことで，「汽車，列車」と言いたいなら“火车 huǒchē”と言わなければなりません。

结束 →「おわる」ことです。日本語の「結束を強める」の「結束」にはもっぱら“团结 tuánjié（団結〔する〕）”が使われます。

猪 →「イノシシ」のことではなく「ブタ」です。「イノシシ」と言いたいときは“野 yě”の字につけ“野猪 yězhū”と言います。中国では干支の「イノシシ年」にはブタの絵が使われているようです。

汤 →「スープ」のことです。お湯が欲しくて「湯（簡体字で“汤”）という字を書いてウエートレスの人に見せたら，スープが運ばれてきた，という笑い話があります。

娘 →「母親」のことです。また，“娘娘 niángniang”と言うと，「子供を授けてくれる女神」になったり，「皇后」のことになったりもします。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ただ，このようないかにも間違いやすいものは，“**汽车** qìchē”は「自動車」，“**火车** huǒchē”は「汽車」，と覚えてしまえばそれまでなのです。むしろ注意しなくてはならないのは，同じような言葉でありながら，日本語と中国語で微妙に意味や使い方にぶれがある場合です。

例えば，「批評（ひひょう）」と“**批评** pīpíng”です。日本語の「批評」は「ものごとのよい所と悪い所を客観的に論じること」です。一方，中国語の“**批评**”は日本語の「批評」と同じ意味もありますが，今はむしろ「悪い所，欠点を挙げていく」という意味で使われることが多いようです。ですから，「自己批判」のことを“**自我批评** zìwǒ pīpíng”といいます。そして，「批評」の意味では，中国語なら“**评论** pínglùn（評論する，批評する）”を使います。

中国語の“**地区** dìqū”も，日本語の「地区」とぴったり一致しているわけではありません。日本語の「地区」は「商業地区」「防災地区」「緑化地区」のように，「ある目的のために行政上区切った一定の場所」として使われています。中国語の“**地区** dìqū”には，日本語の「地区」の意味も含まれていますが，もっと大きい地理的な場所も表わします。ですから，中国語の“**高原地区** gāoyuán dìqū”“**东南亚地区** Dōngnán Yà dìqū”を日本語にするなら，「高原地域［地帯］」「東南アジア地域」のように“**地区**”は「地域」や「地帯」に訳したほうがいいでしょう。言葉に対する敏感さをもっていないと，なまじ同じ言葉が多いだけに，中国語の正しい理解ができなくなってしまう恐れがあります。

●漢語と和語

「漢語（かんご）」は，訓読みの言葉「和語（わご）」に比べてちょっと固いかしこまった感じがします。例えば，日本語で「身体」というと「身体五臓六腑」と続きそうです。「身体測定」「身体能力」，どれもしっかりできあがった単語です。しかし，「体」を「からだ」と訓読みにするとやわらかい感じになります。当り前のことですが，中国語にはその区別はありません。ですから“**身体** shēntǐ”は「身体」でもあれば「からだ」でもあり

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ます。“**你身体好吗？** Nǐ shēntǐ hǎo ma?”は,「あなたの身体はいいですか」ではなく「体の調子はいいですか」，つまり，「お元気ですか」なのです。

“**国家** guójiā”と「国(くに)」についても同じようなことがいえます。“**国家** guójiā”は，日本語の「国家・国(くに)」の両方のニュアンスで使えます。“**这个国家的地势** zhège guójiā de dìshì”なら，「この国家の地勢」というより「この国(くに)の地勢」と言ったほうが日本語としては自然です。日本語の中には中国から伝わった大量な語彙がありますが，それらはもう外来語だったことが忘れられてしまうほど，日本語に溶け込んでいます。しかし，同じものではないのです。私たちはやはり言葉を丁寧に扱って，正しい使い方を心がけたいものですね。

●擬声語・擬態語

音や声をまねて表わした**擬声語**，動作や状態を表わす**擬態語**というものがあります。日本語には，この擬声語，擬態語が，それだけで辞書ができるほどたくさんあり，ぽろっ，ぽろり，ぽろぽろ，ほろっ，ほろり，ほろほろ，ぼろっ，ぼろり，ぼろぼろ…と細かい音の違いで微妙な雰囲気の違いを出すことができます。中国語にも“**噔噔** dēngdēng”“**咚咚** dōngdōng”（いずれも，トントン，ドンドン），“**嘟噜** dūlu（ぶつぶつ，ひそひそ，たらり）”“**吧嗒** bādā（バタッ，パタッ）”のような擬声語，擬態語がありますが，“**劈里啪啦** pīlī pālā”が爆竹の「パンパン」という音にも拍手の「パチパチ」にも使われていたり，“**滴答** dīdā”が時計の「チクタク」にも，雨水の「ポタポタ」にも，ものの落ちる「ポトリ」にも使われているところをみると，日本語ほど細かい使い分けはしていないようです。「道がくねくねと曲っている」なら“**这条路弯弯曲曲的，**Zhè tiáo lù wānwānqūqū de.”のように“**弯曲** wānqū（弯曲している。まがっている）”を AABB と並べて生き生きした感じを出したり，「寒くてぶるっとふるえた」なら，“**冷得浑身发抖** lěng de hūnshēn fādǒu（体中ふるえるほど寒かった）”とその状況を具体的に言い表わすこともできます。また，次のように，形容詞のあとにさらに様子を表わす字をつけて，描写を生き生き

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

したものにする，これも日本語の擬声語，擬態語と同じような働きをしています。

热 rè（熱い）

→ **热烘烘** rèhōnghōng（かっかと熱い）

“烘 hōng”は火に近づいてあたたまること。

热乎乎 rèhūhū（ぽかぽか暖かい）

気候，食べ物，人間関係の暖かさや熱さを表わす。

热辣辣 rèlàlà（ほてってヒリヒリするように熱い）

“辣 là”は“辣油 làyóu（ラー油）”の“辣 là”で，とうがらしの辛さのこと。

热腾腾 rètēngtēng（湯気がさかんにたちのぼってほかほか熱い）

“腾 téng”は「勢いよくたちのぼる」こと。

软 ruǎn（やわらかい）

→ **软绵绵** ruǎnmiánmián（ふんわりとやわらかい）

文字どおり“绵 mián（まわた）”のような軟かさだ。

软囊囊 ruǎnnāngnāng（ぶよぶよとやわらかい）

“囊 nāng”は“náng”と第二声で読むと「ふくろ」のことだが，“nāng”と第一声で読むと「つかみどころがなく，ぶよぶよと軟かい」こと。

软塌塌 ruǎntātā（ぐにゃっとやわらかい）

“塌 tā”は「くずれ落ちる。つぶれてへこむ」こと。

●動詞について

次に中国語の動詞をみてみましょう。中国語の動詞は日本語の動詞に比べて，その動作の具体的なやり方によって細かく使い分けられているようです。「泣く」でよく使う動詞は“哭 kū”です。“哭 kū”は一字で使

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

うほか“哭泣 kūqì（小さな声でめそめそ泣く）”“哭啼 kūtí（かなり声を出して泣く）”“哭嚎 kūháo（泣きわめく）”など，二字の単語もつくります。もともと“哭 kū”は「涙も声も出して泣くこと」，“泣 qì”は「声はあげず涙を流してしくしく泣く」，“啼 tí”は「大声で泣く」なのです。

手の動作を表わす動詞も豊富です。よく使われる目的語や，その動作をするときに使う道具とセットにしてみると，具体的にどんな動作を表しているのかわかりやすくなります。手の動作を表わす中国語の動詞を挙げてみましょう。

拿 ná…つかむようにして持つ

他拿着一本书。（彼は一冊の本を持っている）
Tā názhe yì běn shū.

捏 niē…数本の指をつまむようにしてもつ

他把白糖里的蚂蚁捏出来了。（彼は砂糖の中のアリをつまみ出した）
Tā bǎ báitángli de mǎyǐ niēchūlai le.

提 tí…手にひっかけてぶらさげるようにして持つ

她提着很漂亮的手提包。（彼女はきれいなハンドバッグを持っている）
Tā tízhe hěn piàoliang de shǒutíbāo.

掐 qiā…指先でつまむ，つまむようにしてとる

那个小孩掐了一朵花。（その子供は一つ花を摘んだ）
Nàge xiǎohái qiāle yì duǒ huā.

撮 cuō…指先でつまむ

撮了一点儿盐。（塩を一つまみする）
Cuōle yìdiǎnr yán.

抓 zhuā…手や指でしっかりものをつかむ。「つかまえる」意味もある

他紧紧抓着我的手说。（彼は私の手をぎゅっとつかんで言った）
Tā jǐnjǐn zhuāzhe wǒ de shǒu shuō.

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

端 duān…両手でささげもつ

她把一盘子菜端上来了。（彼女は一皿の料理を運んできた）
Tā bǎ yì pánzi cài duānshang lai le.

また，「切る」も最もよく使われる“切 qiē（刃物などで切る）”のほかにさまざまな動詞があります。使う道具と一緒に挙げてみましょう。

拿剪子剪 ná jiǎnzi jiǎn…はさみで切る
剪 jiǎn → はさみで切る

用刀子割下来 yòng dāozi gēxialai…刃物で切りおとす
割 gē → 刃物で切りおとす

用锯子截断 yòng jùzi jiéduàn…のこぎりで切る
截 jié → 一定の長さに切断する

用菜刀剁肉 yòng càidāo duò ròu…包丁で肉をミンチにする
剁 duò → 切りきざむ

用斧子砍树 yòng fǔzi kǎn shù…おので木を切る
砍 kǎn → おのなどでたたき切る

動詞は，目的語をとる他動詞と目的語をとらない自動詞という分け方，また，その機能からみた，動作動詞，状態動詞，関係動詞（“是 shì”など）というような分け方がありますし，中国語独特な性質や使い方があります。中国語を勉強し始めたら，たくさんの動詞を目にすることになるでしょうが，その動詞の使い方を一つ一つ，正確にチェックしていってください。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

● 親族名称

「おじいさん，おばあさん，お父さん，お母さん，おばさん，いとこ…」など，家族や親戚を呼ぶ言葉を「親族名称」といいますが，中国語ではこの「親族名称」がとても発達しています。簡単に言うと，それぞれの親戚メンバーを呼ぶ呼び方がたくさんあるということです。日本語だったら「父方のおじさん，おじさんといっても父の兄にあたるおじさんで，その人のお嫁さんにあたる人」というところを，中国語ならひと言“伯母 bómǔ”と言えばいいのです。

ある種類の語彙や表現が発達しているというのは，その言葉を使っている人々や社会がそのことを強く意識しているからだ，といわれています。中国語で親族名称がとても豊富なのは，中国人の社会が家族（しかも日本人の考える家族より規模が大きいのですが）を大切にし，個人が家族と強く結びついているということの証しといえるでしょう。中国語の親族名称は大きくは父方と母方に分かれます。父方のほうが本家となるのでより詳しく，おじさんも，お父さんのお兄さんなら“伯父 bófù（口語では“伯伯 bóbo”）”，お父さんの弟なら“叔父 shūfù（口語なら“叔叔 shūshu”）”と呼びます。母方は父方ほど詳しくなく，母方のおじさんは，お母さんのお兄さんでも弟でも“舅父 jiùfù（口語では“舅舅 jiùjiu）”です。昔は中国でも“舅 jiù”は嫁からみた夫の父のことだったので，日本ではそれがのこって「舅（しゅうと）」というのです。おじいさん，おばあさんは，次のようにいいます。

おじいさん

→（父方）祖父 zǔfù（呼ぶときは“爷爷 yéye”）
（母方）外祖父 wàizǔfù（呼ぶときは“外公 wàigōng”または“老爷 lǎoyé”）

おばあさん

→（父方）祖母 zǔmǔ（呼ぶときは“奶奶 nǎinai”）
（母方）外祖母 wàizǔmǔ（呼ぶときは“外婆 wàipó”または“姥姥 lǎolao”）

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

呼び方は一つとは限らず，それぞれの地方によっても違うことがあります。また，結婚している女性なら嫁の立場から夫の家族を呼ぶ呼び方，男性なら夫の立場から妻の家族を呼ぶ呼び方があるので，それは複雑です。中国人の家族では世代や長幼をとても重んじます。両親の兄弟姉妹，つまり，おじやおばにあたる人を呼ぶ言葉には“伯父 bófù（父の兄であるおじ）”“婶母 shěnmǔ（父の弟にあたるおじの妻・おば）”“姨母 yímǔ（母の姉妹にあたるおば）”のように，“父”や“母”の字がついています。これは，おじやおばが一族の中で両親と同世代の人々なので，親のように敬うという考えの表われといえるでしょう。そう考えると「いとこ」は一族の中で自分と同じ世代に属していますから，いわば兄弟姉妹のようなものです。それで父方のいとこには“堂 táng”，母方のいとこには“表 biǎo”をつけて，次のような親族名称が使われます。

堂哥 tánggē … 父方のいとこで，自分より年上の男性。“哥 gē”は「兄」のこと。
堂妹 tángmèi … 父方のいとこで，自分より年下の女性。
表弟 biǎodì … 母方のいとこで，自分より年下の男性。
表姐 biǎojiě … 母方のいとこで，自分より年上の女性。“姐 jiě”は「姉」のこと。

「おじ，おば，いとこ」などは翻訳するときちょっとやっかいで，日本語で「おば」とあっても，どんな関係のおばなのかはっきりしないとなんと訳していいかわかりませんし，“堂妹 tángmèi”とあったら，ただの「いとこ」ですませられるのか，もう少し説明しておくべきなのかも迷うところです。中国の一人っ子政策が，これからどうなっていくのかは世界が注目するところですが，一人っ子ばかりになったら，「おじ」も「お

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ば」も「いとこ」もいなくなり，大きな樹のように広がる中国語の親族名称の図も，きわめてシンプルなものになってしまうのかもしれません。

実際に血縁関係のない人でも，近所の人や知り合い，そしてあるときは知らない人に対しても，親しみをこめて親戚名称で呼ぶことがあります。これは日本と同じです。自分と相手の年齢を考え，自分の祖母と同じくらいの年の女性には“奶奶 nǎinai（おばあちゃん）”と呼びかけます。子供は「よそのおじちゃん」でも，父親より若いくらいの男性には“叔叔 shūshu”，父親より年上に思える男性には“伯伯”を使います。子供から今まで“姐姐 jiějie”（おねえちゃん）”と呼ばれていたのに，初めて“阿姨 āyí（おばちゃん）”と呼ばれたときはショックだった，というのを聞いたことがありますが，こういうことはどこの国でも同じですね。

●外来語

中国語の中にもたくさんの外来語があり，増加の一途をたどっているようです。しかし日本語と事情が違うのは，中国語にはカタカナがないということです。日本語なら外来語は一律カタカナで書いてしまえばいいのですが，中国語では漢字で書き表わすしかありません。

中国で作られた世界地図を見ると，ヨーロッパ，アフリカからアジア，アメリカに至るまで，すべて漢字で書かれた地名が並び，世界中が中国になってしまったようです。でも，“乌兹别克斯坦 Wūzībiékèsītǎn”“阿尔及利亚 Ā'ěrjílìyà”“哥本哈根 Gēběnhāgēn”と発音してみると，なるほど「ウズベキスタン」「アルジェリア」「コペンハーゲン」だな，と想像がつくでしょう。中には“新西兰 Xīnxīlán（ニュージーランド）”“新德里 Xīndélǐ（ニューデリー）”“莫尔兹比港 mòěrzībǐgǎng（ポートモレスビー）”のように，［new → 新 xīn］［port → 港 gǎng］と一部だけ意味で訳しているものもあります。しかしそれは少数で，ほとんどは音訳です。日本でも明治の頃は外国の地名を音訳し漢字で書いていました。「倫敦（ロンドン）」「羅馬（ローマ）」「巴里・巴黎（パリ）」などは，どこかで目にしたことがあるのではないでしょうか。外国人の人名もほとんど音訳です。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

次の人名はだれのことかわかりますか。

（1）迪士尼 Díshìní

（2）拿破仑 Nápòlún

（3）贝多芬 Bèiduōfēn

（4）米开朗琪罗 Mǐkāilángqíluó

（5）彼得・潘 Bǐdé-Pān

（6）巴拉克・奥巴马 Bālākè Āobāmǎ

正答は，（1）ディズニー　（2）ナポレオン　（3）ベートーベン　（4）ミケランジェロ　（5）ピーター・パン　（6）バラク・オバマです。

日本や韓国の人名は漢字そのものを使い，それを中国語読みにします。「佐々木」なら“佐佐木 Zuǒzuǒmu”，「高橋」なら“高桥 Gāoqiáo”になります。自分の名前が中国語の発音で読まれるのはどうもしっくりしない，という人もいますが，中国人からすると，漢字なのだから，それを読むのは自然の成り行きなのかもしれません。ベトナムでも今はアルファベットで文を書き表わしていますが，長い間漢字が使われていました。ベトナムに多い姓「グエン」は，漢字で書くと“阮 Ruǎn”で，中国にもこの姓はあります。今は首都名にもなっている「ホーチミン」も漢字で書けば“胡志明 Hú Zhìmíng”です。

外来語を漢字で表わすには，いくつかのやり方があります。一つはその音に近い発音の漢字で音訳するやり方です。例えば，

奥林匹克 Àolínpǐkè（オリンピック）

马达 mǎdá・摩托 mótuō（モーター）

沙发 shāfā（ソファ）

三明治 sānmíngzhì（サンドイッチ）

雷达 léidá（レーダー）

しかし中には，“德谟克拉西 démókèlāxī”→“民主 míngzhǔ（民主主義・民主）”や“烟士披里纯 yānshìpīlǐchún”→“灵感 línggǎn（インスピレーショ

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

ン，霊感)”のように，後には意味訳した語に変わったものもあります。音訳に使われた漢字は音を借りただけなので，字の意味とはなんの関係もありません。

音訳と意味訳を兼ねたつくりのものもあります。“乌托邦 wūtuōbāng (ユートピア，楽園)”は，音も「ユートピア」に近く，しかも“邦 bāng”から「(そういう) 国」ということがわかります。“维他命 wéitāmìng（ビタミン)”も彼の命を維持する大切なもののようです。“俱乐部 jùlèbù（クラブ)”は“俱 jù”に「なんでもそろっている」という意味がありますから，「楽しみがなんでもそろっている所」でいかにも楽しげです。“可口可乐 kěkǒu kělè(コカコーラ)”も名訳です。音もあっているだけでなく，“可口 kěkǒu（口あたりがよくておいしい)”だから“可乐 kělè（楽しめる，楽しむべし！)”なのですから，うまいものです。「ペプシコーラ」は“百事可乐 bǎishì kělè（万事楽しむべし)”で，こちらもなかなかのネーミングです。音も意味も表わしている外国語の中には，意味の部分で，そのものの属する種類を表わしているものもあります。例えば，

沙丁鱼 shādīngyú（イワシ）

“沙丁 shādīng”は英語の［sardin（イワシ)］の音訳で，その後ろに“鱼 yú”をつけて，「サーディンという魚」と表わしている。

啤酒 píjiǔ（ビール）

“啤 pí”が［beer（ビール)］の音訳。後ろに“酒 jiǔ”をつけて「“ビール”という酒」。

芭蕾舞 bāléiwǔ（バレー）

“芭蕾 bāléi”が［ballet（バレー)］の音訳。“舞 wǔ（舞踊，踊り)”をつけて「バレーという舞踊」となる。

外来語の中には，もとの音のことは考えず，意味から考えて独自に語

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

を作ったものもあります。

テレビ → 电视机 diànshìjī

電気を使っていてものが見える機械。“视 shì”が「見る」,“机”は“機”の簡体字。

レンズ → 镜片 jìngpiàn

“片 piàn”は「うすいもの」を表わしている。

イヤホン → 耳机 ěrjī

耳につける機械

ファックス → 传真 chuánzhēn

本物の姿のまま伝えるもの。“传”は“传 chuán（日本の漢字にすると「伝」)”。

コンビニ → 方便店　fāngbiàndiàn

“方便 fāngbiàn”は英語の［convenience（便利な)］の意味訳。

スーパーマーケット → 超级市场　cháojíshìchǎng

“超级 cháojí”が「スーパー」の意味訳。略して,“超市 cháoshì”がよく使われる。

マルチメディア → 多媒体　duōméitǐ

「マルチ」→“多 duō（たくさんの)”,「メディア」→“媒体 méitǐ”が合体している。

忘れられがちですが，中国語の中には日本から入った外来語もあります。

场合 chǎnghé ← 場合
社会 shèhuì ← 社会
经济 jīngjì ← 経済
取消 qǔxiāo ← 取り消し・取り消す

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

手续 shǒuxù ← 手続き

このような単語は，中国からみると漢字の単語の逆輸入になりますね。

“啤酒 píjiǔ（ビール）”のように，最後にそれが何なのか（ここでは酒類だということ）を表わす字がつく，そういう言葉があることはお話ししました。これも中国語の単語のつくられ方の一つです。「あれはサクラです。」と言いたいときも「サクラの何なのか」をはっきりさせ，「サクラの花」なら“樱花 yīnghuā”，「サクラの木」なら“樱树 yīngshù”といいます。「お茶」も「お茶の木」なら“茶树 cháshù”，「お茶の葉」なら最近中国茶の宣伝によく書かれている“茶叶 cháyè（“叶 yè”は“葉”の簡体字）”，そして，飲む状態になっているお茶は“茶水 cháshuǐ”になります。もちろん，“yīng”（→“樱”？），“chá”（→“茶”？）と一音節だと意味がとりにくいということもあるでしょうが，「サクラといっても，サクラの何なのか」とはっきりさせる，これも中国的な発想なのかもしれません。

●新語

語彙は時代とともに変化するものです。事物が古くなり，やがて消えてしまえば，それを表わす語彙も消え，新しい事物が出現したり増加したりすれば，新しい語彙もどんどん増えていきます。

例えば，コンピュータ（“电子计算机 diànzǐ jìsuànjī”，口語では“电脑 diànnǎo”）の普及によって，大量のコンピュータ用語が使われるようになりました。日中辞典をひくと「アドレス」には“地址 dìzhǐ（住所）”のほかに“网址 wǎngzhǐ（メールアドレス）”が，「マウス」には“老鼠 lǎoshǔ（ネズミ）”のほかに“鼠标 shǔbiāo（コンピュータのマウス）”が，「ファイル」には“文件夹 wénjiànjiā（文房具のファイル）”のほかに“文件 wénjiàn（パソコンのファイル）”という意味がつけ加えられています。そのほか，

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

软件 ruǎnjiàn（ソフトウェア）
硬件 yìngjiàn（ハードウェア）
博客 bókè（ブログ）
黑客 hēikè（ハッカー）
伊妹儿 yīmèir（e メール）

と挙げていくと，きりがありません。

私が中国語を勉強し始めたころに習った“出租汽车 chūzūqìchē”は，今はすっかり“的士 díshì（タクシー）”になってしまいました。何十年も前の中国にはまだ流しのタクシーはなく，ホテルなどで「～までの往来」とか「半日でこことことをまわって欲しい」と申し込んで借りあげたのです。ですから“出租 chūzū（レンタルした）汽车 qìchē（自動車）”という語は，名は体を表わしていました。

また，“面包车 miànbāochē（ワゴン車。“面包 miànbāo は「パン」のこと。ワゴン車の形が，切っていないかたまりの食パンに似ているからこう言う）”も面白い言い方です。“衫 shān（シャツ）”も“恤 xù”がよく使われています。中国へ行ったことのある方は町で“T 恤 T xù（T シャツ）”という字を見たことがないでしょうか。もうずいぶん昔のことですが，香港ではじめて“恤”という字を見たときは「衣へんに“血”？」となんだか変な気がしましたが，“血”の広東語の発音が英語の［shirt］に似ているために使ったあて字だったのです。

「お勘定」の“结帐 jiézhàng”も，今は“埋单（买单）máidān(mǎidān)”を使う人が増えているようです。“埋单 máidān”は「書きつけに必要なことを書いてうめる，書き込む」ことですが，広東語では「お勘定，お願いします」というときに使います。新しい言葉はどうも南から北へ伝わることが多いようです。

千年以上使われて来た語彙と，生まれたばかりの語彙が一緒に使われている，というのもとても興味深いことです。これだけ長い歴史をもち，空間的にもたいへんな広がりのある国の言葉なので，語彙についても話

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

題はつきません。あとは，皆さんが自分で勉強する中で，どんどん新しい語彙にぶつかり，「ああ，こんな言葉があるんだ」「こんな使い方をしているんだ」と楽しい発見をしていってください。

文　法

「文法（中国語では“**语法** yǔfǎ”）」というと，いかにも「勉強しなくてはならない難しいもの」というイメージがあり，敬遠してしまう人もいるでしょう。しかし「文法」というのは簡単に言えば，「言葉や文の組み立て方のルール」のことです。

単語があり，単語がいくつか集まってフレーズができ，その単語やフレーズが，あるルールに従って並ぶと，文ができます。二つ以上の文がつながっていると，今度はそれらの文と文の意味がお互いにどんな関係になっているのかが，問題になります。組み立て方のルールに則っていないと，伝えたいことを正確に表現することも，伝えたい相手にわかってもらうこともできません。しかし，このルールを正しく把握していれば，単語などのパーツの入れ替えによって，非常に多くのことを言い表わせるのです。

「中国語は文法があってないようなものだ」とか「中国語は，発音は難しいけれども文法はやさしい」などと言う人もいますが，そう簡単に言ってしまっていいものなのでしょうか。言葉である以上，その組み立て方のルールがないはずはありませんし，「難しい，やさしい」というのも，何をもってそう言うのか，ということです。

中国語の属する漢蔵語族の多くの言葉には，格や時制による語形変化がありません。英語を勉強するときに習う［I（私は－主格）］［my（私の－所有格）］［me（私を－目的格）］，これが格の変化です。動詞も［write － wrote － written］のように時制によって語形が変わります。フランス語なら，名詞にも性があり，それによって語形が変わり，さらにそこにつく形容詞も語形変化があります。ですから覚えなくてはならないこ

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

とは山ほどあります。このような点から考えてみると，中国語は確かに楽そうです。しかし覚えなければならないルールが多い場合，いったんそれを頭に入れてしまえば，あとはそれに従って話したり，文を作ったりしていけばいい，ともいえるのです。中国語は一見つくりがシンプルですが，一つ一つの字や語がかなり大きな働きをしていますから，それを正確に理解し，使えるようにしなくてはなりません。難しくなっていくそのなり方は，それぞれの言葉によって違います。ちょうど山登りのようです。はじめ急傾斜だけど，そこをすぎればあとは比較的歩きやすい山もあれば，特に難所があるとは思えないけれど，いっこうに頂上が見えない山もあります。結局，「～語はやさしい」「～語は難しい」などということは，そう簡単には言えません。それに，本当に勉強したい，と思ったり，絶対がんばってみるぞ，と決意ができたのなら，あとは，その難しさをどうやって乗り越えていくかを考えればいいのです。

では，中国語の言葉や文の組み立て方のルールを，具体的に挙げていきましょう。まだ勉強を始めていない皆さんにも，中国語の輪郭をつかみとっていただければと思います。

主語 ＋ 動詞 （＋ 目的語）	この語順は英語と同じです

我　去。（私は行きます）
Wǒ　qù.
（私）（行く）

我　吃　苹果。（私はリンゴを食べます）
Wǒ　chī　píngguǒ.
（私）（食べる）（リンゴ）

我们　学习　汉语。（私たちは中国語を勉強します）
Wǒmen　xuéxí　Hànyǔ.
（私たち）（勉強する）（中国語）

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

文末に“吗 ma”をつけると疑問文ができます
“吗 ma”は日本語の「～か？」と同じです。

他是美国人。→ 他是美国人吗?
Tā shì Měiguórén.　Tā shì Měiguórén ma?
（彼はアメリカ人です）　（彼はアメリカ人ですか）

他们去。→ 他们去吗?
Tāmen qù.　Tāmen qù ma?
（彼らは行きます）　（彼らは行きますか）

“吗 ma”をつけるのが一番わかりやすいやり方ですが，そのほかに，次のような疑問文の作り方があります。

▶ 動詞や形容詞の［肯定形］と［否定形］を並べる

このときは文末に“吗 ma”はつけない。

你去不*去银行?（あなたは銀行にいきますか）
Nǐ qù bu qù yínháng?

你要不*要?（あなたはいりますか）
Nǐ yào bu yào?

他喝不*喝酒?（彼はお酒を飲みますか）
Tā hē bu hē jiǔ?

＊ この［肯定形・否定形］の中の“不 bù”は「《動詞を否定して》～しない」。声調をつけず軽く発音（軽声（けいせい）という）する。

▶ “还是 háishi（それとも）”を使って選択疑問文にする

このときも文末に“吗 ma”はつけない。

你吃饭还是吃面?
Nǐ chī fàn háishi chī miàn?
（あなたはライスを食べますか，それとも麺を食べますか）

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

他去中国还是去美国?
Tā qù Zhōngguó háishi qù Měiguó?
（彼は中国に行きますか，それともアメリカに行きますか）

他来还是你来? （彼が来ますか，それともあなたが来ますか）
Tā lái háishi nǐ lái?

▶ イントネーションで疑問文であることを表わす

你要这个（⤴）? （あなたはこれが欲しいの？）
Nǐ yào zhège?

你是北京人（⤴）? （あなたは北京人？）
Nǐ shì Běijīngrén?

她也去（⤴）? （彼女も行くの？）
Tā yě qù?

形容詞が述語（文の体）になる文をつくるときには，「～です／～である」の意味を表わす動詞はいりません

我家很远。（私の家は遠いです）
Wǒ jiā hěn yuǎn.

中国非常大。（中国は非常に大きいです）
Zhōngguó fēicháng dà.

汉语难吗? （中国語は難しいですか）
Hànyǔ nán ma?

形容詞が述語になる文が肯定文のとき，ふつう，形容詞の前にはよく“很 hěn（とても）”“非常 fēicháng（非常に）”“真 zhēn（ほんとに）”“实在 shízài（実に）”“相当 xiāngdāng（かなり）”などの副詞を置きます。“很 hěn”は強調して読まない限り，特に意味はありません。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

否定文をつくるには，動詞や形容詞の前に“不 bù（～ではない）”をつけます

我喝啤酒。→ 我不喝啤酒。
Wǒ hē píjiǔ.　Wǒ bù hē píjiǔ.
（私はビールを飲みます）　（私はビールを飲みません）

我们去图书馆。→ 我们不去图书馆。
Wǒmen qù túshūguǎn.　Wǒmen bú qù túshūguǎn.
（私たちは図書館に行きます）　（私たちは図書館に行きません）

汉语很难。→ 汉语不难。
Hànyǔ hěn nán.　Hànyǔ bù nán.
（中国語は難しいです）　（中国語は難しくありません）

否定形を作るには“不 bù”を前につければいいのですが，例外は動詞の“有 yǒu（ある，もっている）”で，“不 bù”ではなく“没 méi”を使い“没有 méiyǒu（ない，もっていない）”とします。

“不 bù”は第四声ですが，第四声の前につくときには，声調は第二声に変わります。

不大 → 不大（大きくない）
bù dà　bú dà

不看 → 不看（見ない）
bù kàn　bú kàn

不去 → 不去（行かない）
bù qù　bú qù

形容詞述語文の“很 hěn”は“不 bù”を使った否定文になったら，“汉语不难。”のように取ってしまいます。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

巻末資料

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

【音節表】

母音 / 子音	介音なし													
	a	o	e	-i	er	ai	ei	ao	ou	an	en	ang	eng	ong
b	ba	bo				bai	bei	bao		ban	ben	bang	beng	
p	pa	po				pai	pei	pao	pou	pan	pen	pang	peng	
m	ma	mo	me			mai	mei	mao	mou	man	men	mang	meng	
f	fa	fo					fei		fou	fan	fen	fang	feng	
d	da		de			dai	dei	dao	dou	dan		dang	deng	dong
t	ta		te			tai		tao	tou	tan		tang	teng	tong
n	na		ne			nai	nei	nao		nan	nen	nang	neng	nong
l	la		le			lai	lei	lao	lou	lan		lang	leng	long
g	ga		ge			gai	gei	gao	gou	gan	gen	gang	geng	gong
k	ka		ke			kai	kei	kao	kou	kan	ken	kang	keng	kong
h	ha		he			hai	hei	hao	hou	han	hen	hang	heng	hong
j														
q														
x														
zh	zha		zhe	zhi		zhai	zhei	zhao	zhou	zhan	zhen	zhang	zheng	zhong
ch	cha		che	chi		chai		chao	chou	chan	chen	chang	cheng	chong
sh	sha		she	shi		shai	shei	shao	shou	shan	shen	shang	sheng	
r			re	ri				rao	rou	ran	ren	rang	reng	rong
z	za		ze	zi		zai	zei	zao	zou	zan	zen	zang	zeng	zong
c	ca		ce	ci		cai		cao	cou	can	cen	cang	ceng	cong
s	sa		se	si		sai		sao	sou	san	sen	sang	seng	song
＊	a	o	e		er	ai	ei	ao	ou	an	en	ang		

注 1）＊の行は前に子音が付かない場合の表記。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

子音＼母音	介音 i									
	i	ia	iao	ie	iou	ian	in	iang	ing	iong
b	bi		biao	bie		bian	bin		bing	
p	pi		piao	pie		pian	pin		ping	
m	mi		miao	mie	miu	mian	min		ming	
f										
d	di		diao	die	diu	dian			ding	
t	ti		tiao	tie		tian			ting	
n	ni		niao	nie	niu	nian	nin	niang	ning	
l	li	lia	liao	lie	liu	lian	lin	liang	ling	
g										
k										
h										
j	ji	jia	jiao	jie	jiu	jian	jin	jiang	jing	jiong
q	qi	qia	qiao	qie	qiu	qian	qin	qiang	qing	qiong
x	xi	xia	xiao	xie	xiu	xian	xin	xiang	xing	xiong
zh										
ch										
sh										
r										
z										
c										
s										
*	yi	ya	yao	ye	you	yan	yin	yang	ying	yong

注 2）三重母音 [iou] は，第 1 声・第 2 声では主母音の [o] が弱化されて「イウ」，第 3 声・第 4 声では主母音の [o] が聞こえて「ィオウ」となる傾向がある。前に子音が付くときと付かないときの綴りに注意。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

母音 / 子音	介音 u									介音 ü			
	u	ua	uo	uai	uei	uan	uen	uang	ueng	ü	üe	üan	ün
b	bu												
p	pu												
m	mu												
f	fu												
d	du		duo		dui	duan	dun						
t	tu		tuo		tui	tuan	tun						
n	nu		nuo			nuan				nü	nüe		
l	lu		luo			luan	lun			lü	lüe		
g	gu	gua	guo	guai	gui	guan	gun	guang					
k	ku	kua	kuo	kuai	kui	kuan	kun	kuang					
h	hu	hua	huo	huai	hui	huan	hun	huang					
j										ju	jue	juan	jun
q										qu	que	quan	qun
x										xu	xue	xuan	xun
zh	zhu	zhua	zhuo	zhuai	zhui	zhuan	zhun	zhuang					
ch	chu	chua	chuo	chuai	chui	chuan	chun	chuang					
sh	shu	shua	shuo	shuai	shui	shuan	shun	shuang					
r	ru	rua	ruo		rui	ruan	run						
z	zu		zuo		zui	zuan	zun						
c	cu		cuo		cui	cuan	cun						
s	su		suo		sui	suan	sun						
*	wu	wa	wo	wai	wei	wan	wen	wang	weng	yu	yue	yuan	yun

注 3）三重母音 [uei] [uen] は，前に子音が付くときと付かないときの綴りに注意。

注 4）介音 [ü] の場合の綴りに注意。

注 5）声調符号の位置について

1. 母音が一つのときにはその上に付ける。　例）bù，wǒ
2. a があるときには，a の上に付ける。　例）kāi，biǎo
3. a がないときには，e か o の上に付ける。　例）gěi，shuō
4. -iu または -ui のように i と u が並ぶときには，後ろに付ける。　例）liù，huì

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

おすすめ教材（入門・初級者向け）

【辞書】

『**中日辞典**』（相原 茂＝編集，講談社）ISBN978-4-06-265324-4

『**日中辞典**』（相原 茂＝編集，講談社）ISBN978-4-06-265332-9

▶ オーソドックスな中国語辞書。例文にもピンインがついているので便利。

『**中日辞典**』（北京商務印書館＋小学館＝編集，小学館）ISBN978-4-09-515602-6

『**日中辞典**』（北京対外経済貿易大学＋北京商務印書館＋小学館＝編集，小学館）

ISBN978-4-09-51565-2

▶ 内容がより整った改訂版（第 2 版）がお勧め。

【発音】

『CD とイラストで楽しく学ぶ **やさしい中国語の発音**』（于 美香＋于 羽＝著，語研）

ISBN978-4-87615-048-9

▶ どのテキストにも発音の説明はあるが，これは，発音にポイントをしぼった本。例文も活用できる。

【単語集】

『**キクタン中国語 入門編**―聞いて覚える中国語単語帳』

（関西大学中国語教材研究会 ＝著，アルク）ISBN978-4-7574-1391-7

▶ リズムに乗って楽しく学べる。中国語検定準 4 級の単語をマスターできる。

『**起きてから寝るまで中国語単語帳**―身の回りのものを全部中国語で言ってみよう』

（本間 史＝著，アルク）ISBN978-4-7574-1166-1

▶ 題名どおり，一日の生活にそって常用単語が並んでいる。生活に即しているので，頭に入りやすい。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

『**中国語検定対策３級４級　単語編**』（郭 春貴＝著，白帝社）ISBN978-4-89174-643-8

▶ 中国語検定のための参考書だが，声調パターン別の単語や品詞別の単語は，単語書としてもとても役に立つ。

【文法書】

『**完全マスター 中国語の文法**』（瀬戸口 律子＝著，語研）ISBN978-4-87615-082-3

▶ 基本文型，文法のポイントがわかりやすく並んでいる。学習者のレベルに合わせた使い方ができる。

『Why? にこたえるはじめての **中国語の文法書**』

（相原 茂＋石田 知子＋戸沼 市子＝著，同学社）ISBN978-4-8102-0034-8

▶ 中国語の文法に関する問題が網羅して解説されている。ドリルも内容が充実している。

【作文】

『**中国語作文教本**』（陸 偉榮＋吉川 寧＝著，東洋書店）ISBN978-4-88595-732-1

▶ 各課の始めに模範文があり，それを通して文の作り方を学んでいく。訳文の教材としても使える。

『**作文ルール 66　日中翻訳技法**』（相原 茂＋郭 雲輝＝著，朝日出版社）

ISBN978-4-255-45138-1

▶ 文法を正確に理解しながら，正確な中国語が書けるように組み立てられている。並べ替え練習も役に立つ。

【総合学習書】

『**真剣に学び続ける人の中国語教本 入門編**』（本間 史＝著，アルク）

ISBN978-4-7574-1589-8

▶ 発音，文法，基本表現など，中国語学習者のための総合的な学習書。題名に著者の願いが出ている。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

『**本気で学ぶ中国語**』（趙 玲華＝著，ベレ出版）ISBN978-4-86064-247-1

▶ これも総合的に中国語について解説し，実際の発音，文法，基本表現について書かれている。やや厚めの本だが，題名どおり「本気で学ぶ」のだったら，頑張って一冊仕上げてほしいものだ。

【その他】

『**现代汉语八百词**（現代漢語八百詞）増訂本』（商务印书馆）XDHY027495

『**中国語文法用例辞典**―『現代漢語八百詞増訂本』日本語版』（東方書店）

ISBN978-4-497-20303-8

▶『現代漢語八百詞増訂本』の全訳。

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ

永倉 百合子（ながくら・ゆりこ）

1952 年生まれ。東京外国語大学中国語学科卒業。華南師範大学日本語学科講師を経て，現在，中央大学講師，実践女子大学講師，大東文化大学講師。

著書に，『中国語で短編小説を読もう！～天下無賊』『中国語で短編小説を読もう！～靴屋と市長』（以上，語研刊，共訳），『中国語検定４級 合格ガイドと直前模試』『中国語検定３級 合格ガイドと直前模試』（以上, 語研刊, 共著),『今日からはじめる中国語』『中国語会話「決まり文句」600』『香港・広東語会話「決まり文句」600』『基本チェック中国語の文法』（以上，語研刊），『砕けた瓦』（勉誠出版刊，訳）などがある。

【装丁】神田 昇和
【本文イラスト】永倉 百合子

© Yuriko Nagakura, 2010, Printed in Japan

本当に力がつく中国語の学び方

2010 年 4 月 10 日　初版第 1 刷発行

著　者　永倉 百合子
制　作　ツディブックス株式会社
発行者　田中 稔
発行所　株式会社 語研
〒 101–0064
東京都千代田区猿楽町 2–7–17
電　話 03–3291–3986
ファクス 03–3291–6749
振替口座 00140–9–66728
組　版　ツディブックス株式会社
印刷・製本　倉敷印刷株式会社

ISBN978-4-87615-206-3 C0087
書名　ホントウニ チカラガツク チュウゴクゴノ マナビカタ
著者　ナガクラ ユリコ
著作者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価はカバーに表示してあります。
乱丁本，落丁本はお取り替えいたします。

株式会社語研

語研ホームページ http://www.goken-net.co.jp/

本当に力がつく中国語の学び方 ためし読み → Webページへ